

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器を利用する

システム設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate

スーパースリムタワー型
(Windows 98インストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』6. マニュアルの使用方法』でご確認ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows 98のセットアップ
→ 『はじめにお読みください スーパースリムタワー型』

本機を安全に使うための情報
→ 『安全にお使いいただくために』

Windows 98の基礎知識、基本的な操作方法
→ 『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』または、Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』

このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)、ATコマンド
→ 『活用ガイド ハードウェア編 スーパースリムタワー型』(電子化マニュアル)

本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明
→ 『活用ガイド ハードウェア編 スーパースリムタワー型』(電子化マニュアル)

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ
→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子化マニュアル)

トラブル解決方法
→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子化マニュアル)

再セットアップ方法
→ 『活用ガイド 再セットアップ編 スーパースリムタワー型』

選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
→ Office 2000 Personal、Office 2000 Professional、一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

ビジネスでお使いになるお客様向けのメンテナンスとサポート情報の紹介
→ 『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネスでお使いのお客さまへ～』

NECのパソコンに関する相談窓口や受講施設、故障時のサービス網などの紹介
→ 『NEC PC あんしんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>



はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windows 98の基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windows 98もしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。
PC98-NX シリーズ Mate
MA65T/T、MA56H/T
(Windows 98インストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。




仕様についての詳細は、「PART4 付録」をご覧ください。

2000年 7月 初版





このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。
 感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

 チェック!!	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破壊の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。
 用語	パソコンを使うときに知っておいただきたい用語の意味を解説しています。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
 参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 PC98-NX シリーズ Mate MA65T/T、MA56H/T (Windows 98インストールモデル) * 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください スーパースリムタワー型』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、MA65T/T、MA56H/Tを指します。

アプリケーションなし モデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Personalモデル	Office 2000 Personalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Professionalモデル	Office 2000 Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル	一太郎10・花子10パックおよびロータス1-2-3 2000がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、 Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/ Shogakukan Bookshelf® Basic)
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft PowerPoint® 2000、Microsoft Access 2000、Microsoft Pub- lisher 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
一太郎10・花子10パック	一太郎10・花子10パック(一太郎10、花子10、三四郎9、 ATOK13)
1-2-3 2000	ロータス1-2-3 2000

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。

技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく、端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。

認証機器名：SF-19Q-ST

認証番号

電話回線：A00-0402JP

導入にあたっては、「LTDF.INF」または「LTFDNT.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
- (10) 本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2000年6月現在のもです。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、NetMeeting、Outlook、PowerPoint、BookshelfおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標または商標です。

「一太郎10・花子10バック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10バック」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

AutoCrypt、Emergency Access、RC4ならびにGenuine RSA Encryption and Design、Interlocking Key Designのロゴマークは、米国RSA Security社の商標または登録商標です。

RSA SecurPCは、米国RSA Security社の商標または登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

Intel、PentiumおよびCeleronは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における商標または登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。本製品の輸出については、外国為替および外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要否については、ご購入いただいた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART4までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。

索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(☑チェック!)、用語(📖用語📖)、メモ(📝メモ📝)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 周辺機器を利用する

接続できる周辺機器の概要とメモリ、PCカードなどの周辺機器を増設する方法について説明しています。

PART3 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

PART4 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

はじめに	3
このマニュアルの表記について	4
ご注意	7
このマニュアルの構成・読み方	8
目次(このページです).....	9
索引	13
本体の構成各部	17
各部の名称	18
本体正面	18
本体背面	20
電 源	22
電源の状態と操作方法	22
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作).....	24
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作).....	25
電源の自動操作	29
電源の管理について(APMモード/ACPIモード).....	31
キーボード	38
添付されるキーボードの種類	38
使用上の注意	38
PS/2 109キーボード、USB109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード	39
USB小型キーボード	42
USB98配列キーボード	44
日本語入力	46
USB接続のキーボードの使用上の注意	47
マウス	49
マウスについて	49
ディスプレイ	50
表示できる解像度と表示色	50
ディスプレイの省電力機能	53
別売のディスプレイを使う	53
ハードディスクドライブ	54
使用上の注意	54
ドライブ番号の割り当て	56

スキャンディスクの操作手順	56
フロッピーディスクドライブ	58
使用できるフロッピーディスク	58
フロッピーディスクの内容の保護	59
CD-ROMドライブ	60
再生できるCDの種類	60
CD-ROMドライブ使用上の注意	61
非常時のディスクの取り出し	61
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	62
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続	62
LANの設定	62
ネットワークパスワードの変更について	64
FAXモデムボード	66
FAXモデムボードについて	66
FAXモデムボードを使用するときの注意	67
Mateセキュリティ/マネジメント機能	69
セキュリティ/マネジメント機能の概要	69
セキュリティ機能	69
障害・構成管理機能	72
運用管理機能	73
周辺機器を利用する	75
接続できる周辺機器	76
接続にともなう注意点	77
接続前の確認	77
プラグ&プレイ セットアップについて	77
デバイスドライバの追加について	78
接続時に注意すること	78
接続がうまくできない場合	79
リソースの競合が起こったら	80
本体カバー類の取り外し	82
カバーの取り外し	82
カバーの取り付け	85

ケーブルストップパの取り付け/取り外し	87
ケーブルとケーブルストップパの取り付け	87
ケーブルとケーブルストップパの取り外し	88
増設RAMサブボード(メモリ)の取り外し/取り付け	89
取り付け前の確認	89
増設RAMサブボードの取り外し	90
増設RAMサブボードの取り付け	91
メモリ容量の確認方法	92
FAXモデムボードの取り外し/取り付け	93
FAXモデムボードの取り外し	93
FAXモデムボードの取り付け	94
PCカードを利用する	96
PCカードスロットについて	96
使用上の注意	97
PCカードの取り付け	98
PCカードの取り外し	100
ストラップスイッチの設定	102
パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合).....	102
システム設定	107
BIOSセットアップメニューについて	108
BIOSセットアップメニューの起動と初期画面	108
BIOSセットアップメニューの終了	109
工場出荷時の設定値に戻す	109
Mainの設定	110
Mainの設定	110
Advancedの設定	113
Advancedの設定	113
Securityの設定	117
Securityの設定	117
パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合).....	119
Powerの設定	120
Powerの設定	120

Bootの設定	124
起動順位の設定	124
付 録	125
機能一覧	126
型番の読み方	126
仕様一覧	126
割り込みレベル・DMAチャンネル	130
本機のお手入れ	131
マウスのクリーニング	132

索引

ページ太字：説明や作業のあるページを指します。

ページ細字：図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX	62	DPMS	53
109キーボード	39	DV15A3	52
10BASE-T	62	DV17D2	52
1Gバイト	55	Extended Memory	112
1Mバイト	55	F14T41W	51
3.5インチフロッピーディスクドライブ ...	19	F15R42W	51
98配列キーボード	44	F15T2W	51
ACPIモード	31	F18S1W	51
AC電源コネクタ	20	FAX機能	129
APMモード	31	FAX通信機能	66
ATOK	46	FAXモデムによる電源の自動操作 ...	30
ATコマンド	66, 129	FAXモデムボード	66
Auto Suspend Timeout	121	FAXモデムボード機能仕様	129
BIOS	102	FDストッパ	93, 102, 104
BIOS Revision	112	FE90	52
BIOSセットアップメニュー	108	Hard Disk Timeout	121
Boot-Time Diagnostic Screen ...	112	I/O Device Configuration	114
CD-ROM	60	I/Oロック	70, 119
CD-ROMアクセスランプ	19	IEC825	6
CD-ROMドライブ	19, 60	ITU-T	66
Diskette Access	118	JEIDA	96
DMAチャンネル	81, 130	K56flex	66
DMI Event Logging	115	Keyboard Features	111
		LANの設定	62
		LANボード機能仕様	128

LAN用モジュラーコネクタ	21	Removable Devices	124
Local Bus IDE adapter	114	Reset Configuration Data	113
MS-IME	46	Restore On AC/Power Loss ...	116
Network Boot Setting	118	Resume On Modem Ring	122
Nキーロールオーバー.....	38	Resume On Time	123
Office 2000	46	Secondary Master	111
On OME	116	Secondary Slave.....	111
Password On Boot	118	System backup reminder	119
PC-11-1988	6	System Memory.....	112
PC-9800.....	58	System Switch	121
PCMCIA	96	USBケーブルフック	20
PCカード	96	USBコネクタ	21
PCカードイジェクトボタン	20	VCCI	6
PCカードスロット	20	VESA	53
PICROBO.....	77	Webサイト	77
PK-MC201	48	Windowsキー	40, 42
PK-SM003	69		
PK-SM005	69		
PK-UP001.....	48		
PK-UP004E	48		
PK-UP008.....	48		
Plug & Play O/S	113		
Power Savings	120		
Primary Master	110		
Primary Slave	111		
PS/2互換マウスポート	81		
PS/2接続キーボードコネクタ	21		
PS/2接続マウスコネクタ	21		
QuickBoot Mode	114		
README	80		

ア行

赤い「x」	80
アナログRGBコネクタ	21
ウイルス	70
ウィンドウアクセラレータ	50
運用管理機能	73
液晶ディスプレイ	50
エンドユーザ管理	71

カ行

解除	102
解像度	50
書き込み禁止	59

型番の読み方	126
カバー	82
カバーロック	84
キーボード	38
キーロールオーバー	38
黄色い「！」	80
起動順位	124
筐体ロック	21, 71
クライアントモニタリング	72
ケーブルストップ	87
工場出荷時の設定値	109
高調波電流規制	6
小型キーボード	39
誤挿入防止機構	91
コンプリートオフ	53

サ行

サスペンド	53
資源管理	72
ジャンパ	103
周辺機器	77
重要な情報	80
順序	89
障害・構成管理機能	72
状態監視	72
省電力機能	53
スーパーバイザパスワード	102
スキップセクタ	55
スキャンディスク	56
スタビライザ	20

スタンバイ	53
スタンバイ状態	22
ストラップスイッチ	102
スマートカード	69
スロットの位置	90
設定	102
接続可否	77
接続前の確認	77
増設RAMサブボード	89
増設RAMサブボードの取り付け	91
増設RAMサブボードの取り外し	90
ソフトウェアパワーオフ機能	72

タ行

タイマ	29
通風孔	21
データ通信機能	66
ディスクアクセスランプ	19
ディスクイジェクトボタン	19
ディスクトレイイジェクトボタン	19
ディスプレイ	50
適用電話回線	67
デバイスドライバ	78
デバイスマネージャ	77
テンキー付きキーボード	39
電源	22
電源スイッチ	18
電源ランプ	18
電波障害	6
電話回線用モジュラーコネクタ	21

ドライブ番号	56
トラブル	80
取り付け順序	89

ナ行

内蔵機器	82
日本語入力	46
認証番号	6
ネットワークブート	108

ハ行

ハードディスクアクセスランプ ...	18
ハードディスクドライブ	54
ハイパワーデバイス	47
バケット	74
パスワード	64
パスワードの解除	102
バックアップ	54
ハブ	62
表示色	50
フォーマット	58
復帰	23
プラグ&プレイ	77
不良セクタ	55
フロッピーディスクドライブ	58
補足説明	80
本機	4
本機のお手入れ	131
本体	4

マ行

マウス	49
マネジメント機能	69
マルチポートリピータ	62
ミニDIN6ピン	21
メモリ	89
メモリ容量の確認	92
メンテナンスウィザード	57

ヤ行

ユーザパスワード	102
輸出	7

ラ行

ライトプロテクト	59
ライトプロテクトノッチ	59
リソース	77
リソースの競合	80
リフレッシュレート	50
リモートコントロール	73
リモートパワーオン機能	30, 74
リンクケーブルの接続	62
レーザ安全基準	6
ローパワーデバイス	47
漏洩電流自主規制	6

ワ行

割り込みレベル	81, 130
---------------	---------

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

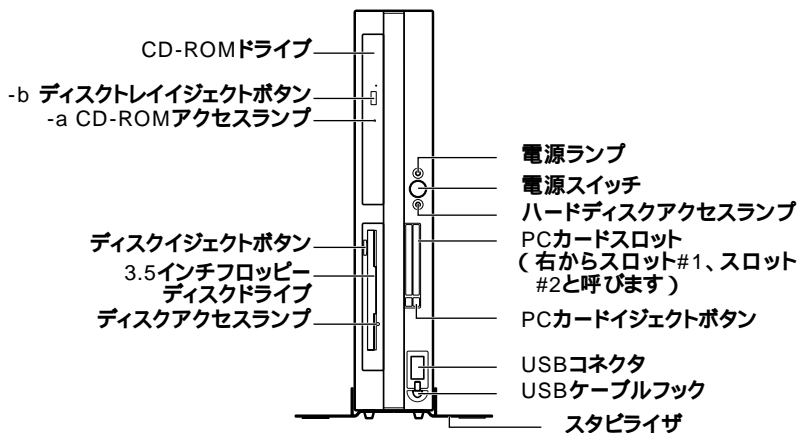
この章の内容

各部の名称	18
電 源	22
キーボード	38
マウス	49
ディスプレイ	50
ハードディスクドライブ	54
フロッピーディスクドライブ	58
CD-ROM ドライブ	60
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	62
FAX モデムボード	66
Mate セキュリティ / マネジメント機能	69

各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面



電源スイッチ(⏻)

本体の電源の状態を変更(入れる / 切る、スタンバイ / スタンバイからの復帰)するスイッチです。「電源」(P.22)

電源ランプ(💡)

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。「電源」(P.22)

ハードディスクアクセスランプ(💡)

IDE デバイス(プライマリマスタ、セカンダリマスタ)が読み書きしているときに点灯します。工場出荷時に内蔵されている IDE デバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)とCD-ROMドライブ(セカンダリマスタ)です。

「ハードディスクドライブ」(P.54)、「CD-ROMドライブ」(P.60)

✓チェック! ハードディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

3.5 インチフロッピーディスクドライブ

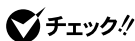
3.5 インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。
「フロッピーディスクドライブ」(P.58)

ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出します。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

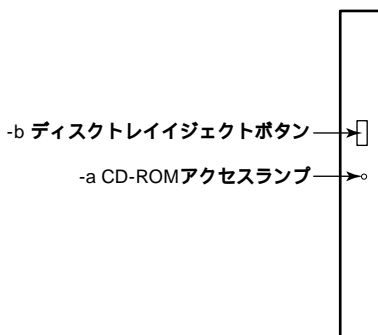
ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。

CD-ROM ドライブ

CD-ROM や音楽CD のデータを読み出す装置です。
「CD-ROM ドライブ」(P.60)

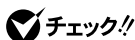
CD-ROM ドライブ拡大図

ランプやボタンの位置が異なる場合があります。



-a CD-ROM アクセスランプ

CD-ROM ドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

CD-ROM アクセスランプ点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

-b ディスクトレイイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

PC カードスロット

PC カードを接続します。「PART2 周辺機器を利用する」「PC カードを利用する」(P.96)

PC カードイジェクトボタン

PC カードを取り出すときに使います。

USB コネクタ(⇄)

USB 機器を接続します。「キーボード」(P.38)

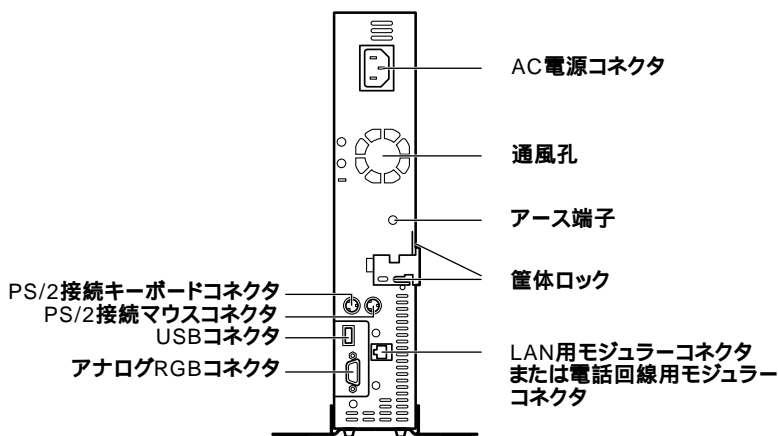
スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

USB ケーブルフック

USB 機器のケーブルが抜けるのを防止します。

本体背面



AC 電源コネクタ

AC コンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。添付の電源ケーブルを接続します。

USB コネクタ(🔌)

USB 機器を接続します。添付の USB 接続のキーボードなどを接続します。「キーボード」(P.38)

LAN用モジュラーコネクタ(📶)または電話回線用モジュラーコネクタ(📞)

LAN ボードまたは FAX モデムボードが内蔵されています。
LAN ボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.62)

FAX モデムボードが内蔵されているモデルでは、データ通信や FAX の送受信などを行うことができます。「FAX モデムボード」(P.66)

FAX モデムボードは取り外すことができます。「PART2 周辺機器を利用する」/「FAX モデムボードの取り外し / 取り付け」(P.93)

アナログ RGB コネクタ(📺)

アナログインタフェースのディスプレイを接続します。

「ディスプレイ」(P.50)

PS/2 接続キーボードコネクタ(📻)

PS/2 接続のキーボードのモデルでは、PS/2 接続のキーボード(ミニ DIN6 ピン)を接続します。「キーボード」(P.38)

PS/2 接続マウスコネクタ(🖱)

PS/2 接続のキーボードのモデルでは、PS/2 接続のマウス(ミニ DIN6 ピン)を接続します。「マウス」(P.49)

筐体ロック(🔒)

市販のロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

「Mate セキュリティ / マネジメント機能」(P.69)

通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

アース端子(⊕)

アース線を接続します。

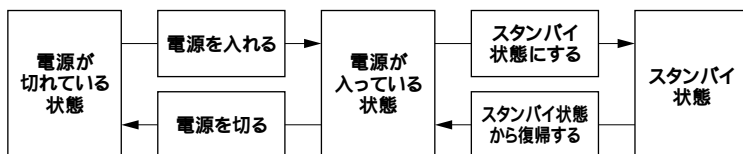
電源

ここでは電源の入れ方と切り方や、省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」の3つの状態があります。



電源が切れている状態

Windows 98 を終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブのモータを停止するなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰させるときは素早く元の状態に戻すことができます。

電源の状態により、ランプとディスプレイの表示は、次のようになります。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 98の終了メニューから「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 98の終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」 「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する
BIOSセットアップメニューで「自動サスペンドタイムアウト」を設定する
Timer-NXを利用する

スタンバイ状態から復帰する

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方 / 切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、次の手順があります。

✓チェック!! 電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

- 1 フロッピーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど周辺機器の電源を入れる
- 3 本体の電源スイッチを押す

✓チェック!! メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。128MBを2枚に増設した場合、約6秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

✓チェック!! 電源投入後、Windows 98 やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。また、マウスポインタが砂時計表示されていないこと、およびディスクアクセスランプなどが点灯していないことを確認してから電源を切ってください。

「スタート」ボタンによる方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

✓チェック!! 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

- 2 「スタート」ボタン 「Windows の終了」をクリック
- 3 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

電源スイッチによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 電源スイッチを押す

「Windows を終了します。よろしいですか? OK/ キャンセル」と表示されます。

△注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

3 「OK」ボタンをクリック

自動的に電源が切れます。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

メモ

ソフトウェアのエラーなどで、Windows 98 の操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」をご覧ください。

スタンバイ / スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ / スタンバイからの復帰を行うには、システムスイッチを変更する必要があります。

参照 システムスイッチの変更 「PART3 システム設定」 「Power の設定」 (P.120)

チェック!! スタンバイ / スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから 5 秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

「スタート」ボタンによる方法

- 1 「スタート」ボタン 「Windows の終了」をクリック
- 2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

△注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

入力デバイスによる方法

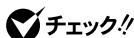
- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

△注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

**チェック!!**

内蔵 LAN ボード搭載モデルの場合、接続先がないと起動やスタンバイからの復帰が20秒ほど長くなることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決 Q&A』『電源を入れたが...』を参照して、設定の変更を行ってください。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。この注意を守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。

- ・電源ケーブルが本体や AC コンセントから外れたとき
 - ・停電が起きたとき
 - ・電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき
- このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windows が正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき

スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・フロッピーディスクや CD-ROM を取り出したとき
- ・PC カードや LAN ケーブルの抜き差しをするなど、本機の環境や構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・プリンタへ出力中のとき
- ・音声または動画を再生しているとき

- ・フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・CD-ROM を読み取り中のとき
- ・スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中のとき
- ・Windows 98 の起動処理中、終了処理中のとき
- ・通信用ソフトウェアでFAX モデムまたはLAN などを使ってネットワークに接続しているとき
スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。したがって、ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認の上、スタンバイ機能を使用してください。

その他の注意

- ・通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・CD-ROM ドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・CD の再生中にスタンバイ状態にした場合、CD は再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ATAカードを挿入しているときにスタンバイ状態にすると、カードを挿入していないときより時間がかかります。
- ・ACPI モードにおいて、本体PC カードスロットで、SCSI またはIDE インタフェースの CardBus 対応 PC カードをご使用の場合、正常にスタンバイ状態から復帰できない場合があります。これらのPCカードをご使用の場合には、スタンバイ状態にする前にPCカードを取り外してから、スタンバイ / スタンバイから復帰を行ってください。
- ・ネットワークの設定がTCP/IP でDHCP サーバーを使用する設定になっていると、起動時やスタンバイ状態から復帰の際に、通常より20秒ほど時間がかかることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決 Q&A』の「電源を入れたが…」をご覧ください。

スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法
次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・アプリケーションが動作しない
- ・スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上、押し続けてください。スリープランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

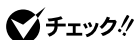
電源の自動操作

タイマやLAN(ローカルエリアネットワーク)回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ

「電源の管理」の「システムスタンバイ」

「コントロールパネル」「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておくとし、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。工場出荷時は約15分でディスプレイの電源を切るように設定されています。



チェック!

ACPIモードで使用時に、「スタート」ボタン「コントロールパネル」の「電源の管理」をダブルクリックし、「システムスタンバイ」の設定時間を、「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」は「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。よって、次のような設定がなされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは、「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「システムスタンバイ」 20分後

「モニタの電源を切る」 15分後

「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、次のように設定してください。

例1:

「システムスタンバイ」 15分後

「モニタの電源を切る」 5分後

例 2:

「システムスタンバイ」 20 分後

「モニタの電源を切る」 なし

参照 「電源の管理について(APM モード /ACPI モード)」(P.31) Windows 98 のヘルプ

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる / 切る、またはスタンバイ状態にする / スタンバイ状態から復帰することができます。「Timer-NX」で指定した時刻に電源を入れることができるのは、APM モードで使用しているときだけです。ACPI モードでは使用できません。

参照 「電源の管理について(APM モード /ACPI モード)」(P.31)
『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除 / 追加」
「Timer-NX」
「Timer-NX」のヘルプ

リモートパワーオン機能(LAN ボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

参照 「Mate セキュリティ / マネジメント機能」
「運用管理機能」
「リモートパワーオン機能(Remote Power On 機能)」(P.74)
「電源の管理について(APM モード /ACPI モード)」(P.31)

リング機能(FAX モデムによる電源の自動操作)

FAX モデムボードが内蔵されているモデルでは、FAX や電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。

Timer-NX を使ってスタンバイ状態から復帰することができるのは、FAX モデムボードが内蔵されているモデルを利用した場合です。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除 / 追加」
「Timer-NX」
「Timer-NX」のヘルプ

電源の管理について(APM モード /ACPI モード)

本機では、電力を節約する機能を使うための電源管理のモードとして、APM モードと ACPI モードの 2 つのモードを使うことができます。工場出荷時の状態では、APM モードに設定されています。

用語 APM モード

APM (Advanced Power Management) を使って電源の管理を行うモードです。APM とはパソコンや周辺機器の電源の管理を、BIOS やデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

用語 ACPI モード

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) を使って電源の管理を行うモードです。ACPI とは、パソコンや周辺機器の電源の管理を OS で行うためのしくみで、Windows 98 で実現できるようになりました。

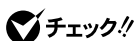
モードの確認

どちらのモードで動作しているかは「デバイスマネージャ」で確認できます。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「システムのプロパティ」が表示されたら「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 「システムデバイス」をクリック
以下の情報が表示されます。
 - ・ APM モード のとき：アドバンストパワーマネジメントサポート
 - ・ ACPI モード のとき：ACPI xxxxx

APM モードから ACPI モードへの切り替え方法

APM モードから ACPI モードへ切り替える際には、Windows 98 に関して十分知識がある方が作業するようにしてください。



チェック!!

- ・ ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に割り込みを1つ使用します。ACPIモードへの切り替えは、使用していない割り込み(IRQ)を確認してから行ってください。
- ・ モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップの直後に行ってください。
- ・ APM モード(工場出荷時)から ACPI モードに切り替えた後、ACPI モードから APM モードに戻すには再セットアップが必要です。



参照 再セットアップ 『活用ガイド 再セットアップ編 スーパースリムタワー型』

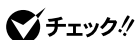
- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリック
- 2 エクスプローラから「C: ¥MODECHG¥ACPI_APM.VBS」をダブルクリック
- 3 「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 4 「ACPIを有効にする準備ができました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 5 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 6 「ハードウェアの追加」をダブルクリック
- 7 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面で「次へ」ボタンをクリック
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

9 「インストールするデバイスは一覧にありますか?」と表示されたら「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

10 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検索されます。」と表示されたら「はい(通常はこちらを選んでください)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

11 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
ハードウェアの検出が始まります。

12 「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック



チェック!!

- ・「次のプラグアンドプレイデバイスがインストールされました。」と表示された場合、「ほかのデバイスをインストールする」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- ・Windows 98 の CD-ROM をセットするように要求するメッセージが表示された場合は、本体ハードディスクにある C:\¥WINDOWS¥OPTIONS ¥CABS フォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
- ・APM モードから ACPI モード切り替えを実行すると、ディスプレイの設定が 640 × 480 の 16 色モードになる場合があります。切り替え完了後、ディスプレイのプロパティで元の設定に再設定してください。

13 ハードウェアウィザード終了後、「コンピュータを再起動してください」と表示されるので「はい」ボタンをクリック

14 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリック

15 エクスプローラから「C:\¥MODECHG¥APMOFF2.REG」をダブルクリック

16 「情報をレジストリに追加しますか?」と表示されるので「はい」ボタンをクリック

17 「レジストリに正しく入力されました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック


APM モードから ACPI モードへの切り替え後の注意

3 モード FD ドライバの再セットアップ、リモートパワーオン機能を使用するための設定(P.36)があります。


3 モード FD ドライバの再セットアップ

APM モードから ACPI モードへ切り替え後、1.2MB フロッピーディスクが使用できなくなった場合は、以下の手順で3 モードFD ドライバを組み込み直してください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「システムのプロパティ」の画面が表示されたら、「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 リストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリック
- 5 表示されたドライバ名の中に「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」が存在するか確認する


 **チェック!!** ここで「フロッピーディスクコントローラ」の下に「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」が存在しなかった場合には、6 ~ 9 の手順は必要ありません。手順 10 へ進んでください。

- 6 「NEC 3-mode Floppy(LPC47B27x)」をクリックして反転表示させて「削除」ボタンをクリック
- 7 「デバイス削除の確認」が表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 8 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリック
- 9 Windows 98 を再起動する

 **チェック!!** 再起動後にディスプレイの解像度や色数が変更されることがあります。その場合は、手順 19 が終了した後に、ディスプレイの表示の設定を変更して元の解像度、色数に戻してください。

10 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック

11 「ハードウェアの追加」をダブルクリック

 **チェック!!** 新しいハードウェアデバイスをインストールする前に、実行中のアプリケーションがある場合にはすべて終了させてください。

12 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

13 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
検索が開始されます。

14 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

15 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検出されます。」と表示されたら、「いいえ(一覧から選択する)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

16 「ハードウェアの種類」のリストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

17 製造元とモデルを選択する画面が表示されるので、製造元からは NEC をモデル一覧からは「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

18 「完了」ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。

19 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上で3モードFDドライバの組み込みは完了です。

リモートパワーオン機能を使用するための設定

APM モード時にスタンバイ状態からの復帰をリモートパワーオン機能で行う場合、および電源が切れている状態からリモートパワーオン機能により電源を入れる場合は、次の設定が必要となります。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
- 4 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「Intel 825x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「Enabled」に設定する
- 6 「OK」ボタンをクリック
- 7 「OK」ボタンをクリック
- 8 Windows を再起動する

ACPI モード時にスタンバイ状態からの復帰をリモートパワーオン機能で行う場合は、次の設定が必要となります。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 4 「Intel 825x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「電源の管理」タブをクリック

- 6 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」のチェックを付ける
- 7 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックを付ける
- 8 「OK」ボタンをクリック
- 9 「OK」ボタンをクリック
- 10 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
- 11 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 12 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「No Action」に設定する
- 13 「OK」ボタンをクリック
- 14 「OK」ボタンをクリック
- 15 Windows を再起動する

ACPI モード時の注意事項

ACPI モード時にパワーマネジメント機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ MS-DOS プロンプトが一番手前に表示されているときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が正常に表示されない場合があります。その場合には、【Alt】+【Tab】を押してタスクを切り替えることにより正常に動作するようになります。

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。キーボードの設定については、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「キーボード」で行ってください。

参照 Windows 98 のヘルプ

添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キーの配列などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列
	テンキー付きPS/2小型キーボード		109準拠
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列
	USB小型キーボード		109準拠
	USB98配列キーボード		98配列

使用上の注意

N キーロールオーバー

N キーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

USB 接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB接続のキーボードを抜き差しする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windows 98を再起動してください。

APM モードから ACPI モードへの切り替え後の注意

USB98 配列キーボードの場合、APM モードから ACPI モードへの切り替えを実行すると、キーボードの設定が「106 日本語(A01)」に変わってしまいます。切り替え完了後、再設定してください。

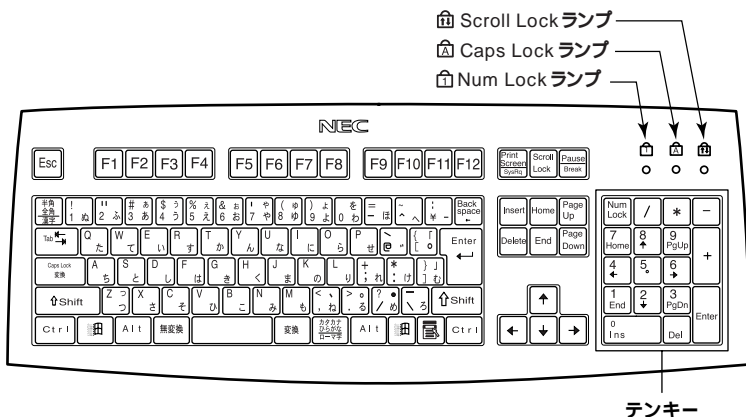
設定方法については、「Mate/Mate R 電子化マニュアル」を起動して「補足説明」をクリック、または「スタート」ボタン「プログラム」「補足説明」をご覧ください。

PS/2 109 キーボード、USB109 キーボード、テンキー付き PS/2 小型キーボード

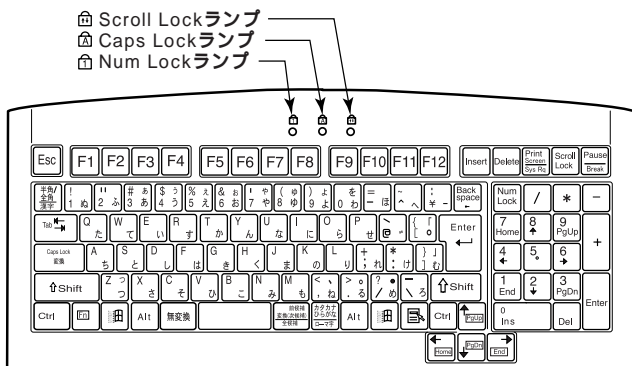
キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。()内はテンキー付き PS/2 小型キーボードの場合のキーです。

PS/2 109 キーボード、USB109 キーボードの場合



テンキー付き PS/2 小型キーボードの場合



Esc : エスケープキー

F1 ~ F12 : ファンクションキー

Print Screen SysRq : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押しすと、Scroll Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.41)

Pause Break : ポーズ / ブレークキー

半角/全角/漢字 : 半角 / 全角 / 漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock 英数 : キャプスロック / 英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock / 英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.41)

↑Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

Windows キー

アプリケーションキー

Windows キーとアプリケーションキーは Windows によって機能を割り当てることができます。

Alt : オルトキー

無変換 : 無変換キー

スペースキー

変換 (カタカナ/ひらがな/ローマ字) 変換キー

カタカナ/ひらがな/ローマ字 : カタカナひらがな / ローマ字キー

Enter : エンターキー












Backspace : バックスペースキー

Insert : インサートキー

Delete : デリートキー

Home : ホームキー

End : エンドキー

	: ページアップキー	ロックし、Num Lock ランプ
	: ページダウンキー	が点灯します。「キーをロ
	: カーソル移動キー	ックする」
	(    )	(): Fn キー 「キーをロック
	: ニューメリックロックキー	する」
	一度押すとニューメリック	

参照 Windows キーとアプリケーションキー Windows 98 のヘルプ

キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

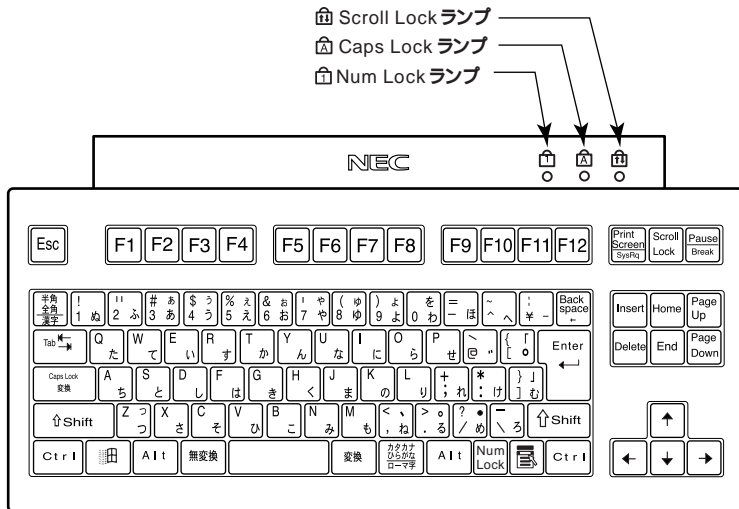
	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

【Fn】を押しながらカーソル移動キーを押すと、【Page Up】【Page Down】【End】【Home】にすることができます。

USB 小型キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



ESC : エスケープキー

F1 ~ **F12** : ファンクションキー

Print Screen/SysRq : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.41)

Pause/Break : ポーズ / ブレークキー

半角/全角/漢字 : 半角 / 全角 / 漢字キー

Tab : タブキー

















Caps Lock/英数 : キャプスロック / 英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/ 英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.41)

↑Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

Windows : Windows キー

-  : アプリケーション キー
Windows キーとアプリケーションキーはWindows によって機能を割り当てることができます。
-  : オルトキー
-  : 無変換キー
-  : スペースキー
-  : 変換キー
-  : カタカナひらがな / ローマ字キー
-  : エンターキー
-  : バックスペースキー
-  : インサートキー
-  : デリートキー
-  : ホームキー
-  : エンドキー
-  : ページアップキー
-  : ページダウンキー
-  : カーソル移動キー
-  : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.41)

参照 Windows キーとアプリケーションキー Windows 98 のヘルプ

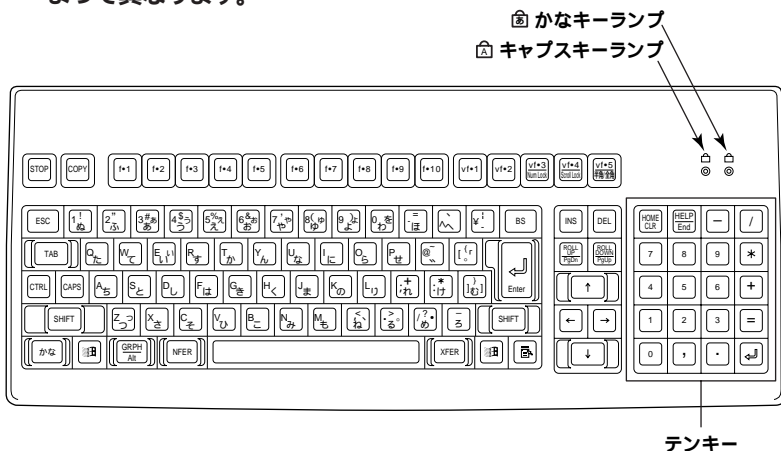
キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.41)をご覧ください。

USB98 配列キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



A : キャプスキーランプ
【CAPS】を押すと点灯します。

あ : かなキーランプ
【かな】を押すと点灯します。

CAPS : キャプスキー

かな : かなキー

COPY : コピーキー

f.1 ~ **f.10** **vf.1** ~ **vf.2**

























: ファンクションキー


vf*3
Num Lock

: Windows では、Num Lock は常に ON になっています。DOS モード/DOS プロンプト上または Windows NT 上では Num Lock の切り替えが可能です。

vf*4
Scroll Lock

: DOS モード/DOS プロンプト上または Windows NT 上では Scroll Lock として動作します。

	:DOS モード /DOS プロンプト上または Windows NT 上では半角 / 全角として動作します。		:リターンキー / エンターキー
	:バックスペースキー		:シフトキー
	:インサートキー		:Windows キー
	:デリートキー		:アプリケーションキー
	:ホームクリアキー		:エクスファークキー
	:ヘルプキー / エンドキー		:スペースキー
	:ロールアップキー / ページダウンキー		:エヌファークキー
	:ロールダウンキー / ページアップキー		:グラフキー / オルトキー
	:カーソルキー		:コントロールキー
			:タブキー
			:エスケープキー
			:ストップキー

 **チェック!** 下記は、使用しているモードによって動作が異なりますので注意してください。()内は Windows NT の場合です。

キー入力	Windows	DOSモード/DOSプロンプト
半角カナ入力	可能	不可
テンキー【=】、【.】	可能	不可
【`】または【SHIFT】+【^】	【`】	【`】
【'】または【SHIFT】+【'】	【'】	【'】
【ろ】	入力なし	【ろ】
日本語入力切り替え	【CTRL】+【XFER】または【XFER】	【GRPH】+【Vf.5】
【Num Lock】切り替え	不可	可能
【Vf.3】	【Vf.3】【Num Lock】	【Num Lock】
【Vf.4】	【Vf.4】【Scroll Lock】	【Scroll Lock】
【Vf.5】	【Vf.5】【半角/全角】	【半角/全角】
【CAPS】切り替え	【CAPS】	【SHIFT】+【CAPS】

 **参照** Windows キーとアプリケーションキー Windows 98 のヘルプ

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

日本語入力プログラム	アプリケーションなしモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子10 バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME98			
MS-IME2000			
ATOK13			


：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

：インストールされている日本語入力プログラム


日本語入力のオン / オフ

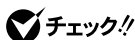
日本語入力のオン / オフを切り替えるには次の方法があります。

PS/2 109 キーボード、テンキー付き PS/2 小型キーボード、USB109 キーボード、USB 小型キーボードの場合

- ・ キーボードの【Alt】を押しながら【半角 / 全角 / 漢字】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する

USB98 配列キーボードの場合

- ・ 【CTRL】を押しながら【XFER】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する



チェック!!

NEC 98 Layout Keyboard (XFER) を設定した場合、MS-IME 98、MS-IME 2000 で【XFER】で日本語入力を OFF にすることはできません。【XFER】で日本語入力を OFF にできるようにするには、「Microsoft IME 98 詳細プロパティ」または「Microsoft IME 2000 詳細プロパティ」の「キーの設定」で、【変換】の「入力 / 変化済み文字なし」の設定を「再変換」から「-」に変更してください。

日本語変換の手順

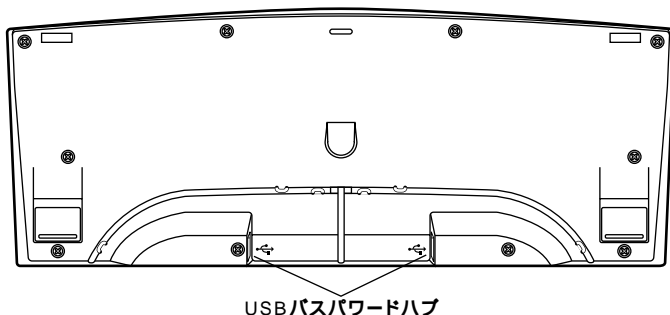
日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IME または ATOK13 のヘルプをご覧ください。

メモ

日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB 接続のキーボードの使用上の注意

USB 接続のキーボード(USB109 キーボード、USB 小型キーボード、USB98 配列キーボード)の裏面には、USB 機器を接続するためのハブが装備されています。1 つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが接続されます。ハブを2 つ装備しているキーボードの残りの1 つには別売の USB 機器を接続できますが、次の制限があります。



電源容量による接続の制限

- USB 接続のキーボードのUSBハブは、USB バスパワーハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。USB 機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB 接続のキーボードに接続できる USB 機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。

メモ

ハイパワーデバイス：接続先に 500mA 以下の電源を要求する USB 機器。

例)PK-UP001 (フルカラーイメージスキャナ)

PK-MC202 (デジタルビデオカメラ)

PK-MC202E(デジタルビデオカメラ)

ローパワーデバイス：接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

例)PK-UP004E、PK-UP008(バーコードリーダー)

- USB の仕様では、USB 機器は最大 5 段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

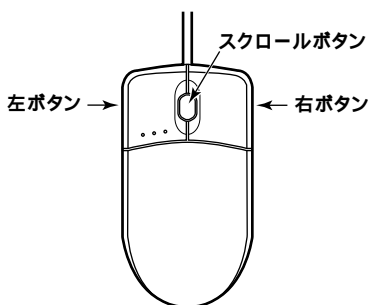
マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。マウスの設定については、「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の「マウス」で行ってください。

参照 Windows 98 のヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスは、スクロールボタン付きマウスです。



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。

また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときにスクロールアイコンが表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

チェック!! スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。また、別売の外付けディスプレイを接続して表示することもできます。ディスプレイの設定については、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「画面」で行ってください。

参照 Windows 98 のヘルプ

表示できる解像度と表示色

本機では、表示する解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。

- ✓ **チェック!!**
- ・リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。機種によってはリフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定を「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れるためです。
 - ・使用するディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。

参照 液晶ディスプレイ調整ツール 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除 / 追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」

- ・次の別売のディスプレイは使用できません。
 - PC-KM212
 - PC-KM174

液晶ディスプレイの場合


本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるディスプレイとの対応			
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	14型 液晶ディス プレイ (F14T41W)	15型 液晶ディス プレイ (F15T2W)	15.4型 液晶ディス プレイ (F15R42W)	18型 液晶ディス プレイ (F18S1W)
640×480	256色	31.5	60				
	65,536色	37.5	75				
	1,677万色	43.3	85	x	x	x	x
800×600	256色	37.9	60				
	65,536色	46.9	75				
	1,677万色	53.7	85	x	x	x	x
1,024×768	256色	48.4	60				
	65,536色	60.0	75				
	1,677万色	68.7	85	x	x	x	x
1,280×1,024	256色	64.0	60	x	x		
	65,536色	80.0	75	x	x		
	1,677万色	91.1	85	x	x	x	x
1,600×1,200	256色	75.0	60	x	x	x	x
		93.8	75	x	x	x	x
		106.3	85	x	x	x	x

CRT ディスプレイの場合

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できる ディスプレイとの対応		
解像度 [ドット]	表示色	水平走査周 波数 [KHz]	垂直走査周 波数 [Hz]	15型 CRTディス プレイ (DV15A3)	17型 CRTディス プレイ (DV17D2)	19型 CRTディス プレイ (FE90)
640×480	256色	31.5	60			
	65,536色	37.5	75			
	1,677万色	43.3	85			
800×600	256色	37.9	60			
	65,536色	46.9	75			
	1,677万色	53.7	85			
1,024×768	256色	48.4	60			
	65,536色	60.0	75			
	1,677万色	68.7	85			
1,280×1,024	256色	64.0	60	×		
	65,536色	80.0	75	×	×	
	1,677万色	91.1	85	×	×	
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	
		93.8	75	×	×	
		106.3	85	×	×	×

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA (Video Electronics Standards Association) で定義されているディスプレイの省電力モード (DPMS : Display Management System) に対応しています。ディスプレイセットモデルをご購入のお客様は、ディスプレイの省電力機能が使用できます。

-  **チェック!** 省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

メモ

VESA では、ディスプレイの電源の状態をオン (電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード (スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ (電源が切れた状態) と定義しています。

別売のディスプレイを使う

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、「表示できる解像度と表示色」(P.50) を参考に、適合するディスプレイを使用してください。

メモ

本体が、ディスプレイにあわせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればスキャンディスクを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

⚠ 注意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

温度、湿度条件を守ってください。

温度 10 ~ 35、湿度 20% ~ 80% (ただし結露しないこと)

ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。

電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。

電源を切るときは、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックして電源を切ってください。正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータがこわれてしまうことがあります。

電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしが空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。

また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

参照 ▶ Windows 98 のヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows 98 の「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数 が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
10G バイト	10,000,000,000 バイト以上
20G バイト	20,000,000,000 バイト以上
30G バイト	30,000,000,000 バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1M バイト = 1,000,000 バイト、1G バイト = 1,000,000,000 バイトで計算したときの M、G バイト値を示してあります。OS によっては、1M バイト = 1,048,576 バイトで M バイト値を、1G バイト = 1,073,741,824 バイトで G バイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

メモ

本機で使用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512 バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。本機のハードディスクドライブ(プライマリマスタ)は、工場出荷時には第1パーティション(ドライブ番号:Cドライブ)として2GBの領域が確保されています。残りの領域は、第2パーティションとして確保されています。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Qドライブ	CD-ROMドライブ

メモ

領域を変更するには、FDISK コマンドを使用します。FDISK コマンドについては『活用ガイド 再セットアップ編』の「ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする(カスタム再セットアップ)」をご覧ください。

スキャンディスクの操作手順

スキャンディスクを使用すると、ハードディスクのファイルやフォルダにデータエラーがないかチェックできます。

Windows 98 が起動している場合(通常の場合)

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「スキャンディスク」をクリック
- 2 エラーをチェックするドライブを選択する
- 3 「チェック方法」で「標準」を選択する

- 4 「エラーを自動的に修復」をクリックしてチェックを付ける
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「結果レポート」が表示されたらレポートを読み、エラーが発見されなかった場合は、「閉じる」ボタンをクリック
エラーが発見された場合は、画面の指示に従ってください。
- 7 もう一度「閉じる」ボタンをクリック

Windows 98 が起動できなかった場合(異常があった場合)

- 1 本体の電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴが表示されたら、すぐに【ctrl】を「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで押す
- 3 「5.Command prompt only」を選択し、【Enter】を押す
- 4 コマンドプロンプトから scandisk と入力し、【Enter】を押す
- 5 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択し、修復する
- 6 「クラスタスキャンを実行しますか?」のメッセージが表示されたら矢印キーで「いいえ」を選択し、【Enter】を押す
- 7 【X】を押してスキャンディスクを終了する



チェック!!

定期的にはスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

メンテナンススイザードを利用すると、定期的にはスキャンディスクを起動することができます。メンテナンススイザードの起動方法は次の通りです。

「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「メンテナンススイザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド 再セットアップ編』をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。なお、フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×
	720KB		
2HD	1.2MB		×
	1.44MB		

✓チェック!!

- ・ 1.2MBのフロッピーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)。
- ・ 未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットする場合、ディスクのチェックに時間がかかる場合があります。フォーマット開始後にフロッピーディスクドライブのアクセスランプがつきっぱなしになった場合は、しばらくするとフォーマット処理が開始されます。
- ・ マイコンピュータまたはエクスプローラで2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、フロッピーディスクをドライブから一度取り出し、再度入れてからご使用ください。フォーマット後、フロッピーディスクを取り出さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していてもエラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクにはこの手順は必要ありません。

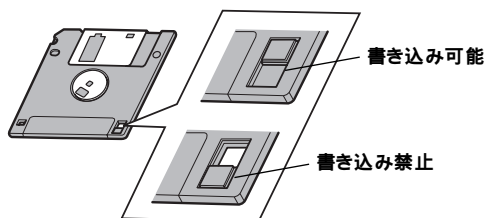
メモ

- ・ 1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。
- ・ 未使用のフロッピーディスクをフォーマットするためには多少時間がかかります。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



CD-ROM ドライブ

CD-ROM はデータやプログラムが書き込まれている CD です。なお、CD にラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RW は、CD-ROM 対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカを破損したりする原因となります。

再生できる CD の種類

本機に標準で内蔵されている CD-ROM ドライブでは、ISO9660 に準拠した CD、または下記の表中の CD を再生・表示することができます。

規 格	概 要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型の CD
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された動画用のCD-ROM
CD Extra(CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-R(CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW(CD-Rewritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM

✔ **チェック!** 本機にはサウンド機能が搭載されていないので、音声などは再生できません。

CD-ROM ドライブ使用上の注意

CD-ROM ドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

非常時のディスクの取り出し

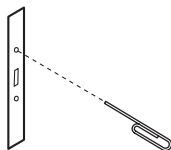
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

✓チェック!! 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

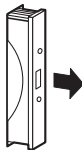
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



- 2 非常時ディスク取り出し穴(直径約 1.5mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが 15mm ほど飛び出します。



- 3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む





LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続


接続前の確認

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TX または 10BASE-T に対応した LAN に接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。100BASE-TX で使用するためには、カテゴリ 5 のリンクケーブルが必要です。

 参照 「PART4 付録」「機能一覧」(P.126)

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

 **チェック!!** 本機を稼働中の LAN に接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。

LAN の設定

ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については『Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド』、または Windows 98 のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98 ファーストステップガイド』の「第5章 高度な機能」の「ネットワークを使う」をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 必要な機能を追加

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 共有サービスを追加
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」, 「ワークグループ」, 「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力
- 7 「OK」ボタンをクリック



チェック!

設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

ネットワークパスワードの変更について

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

「Microsoft ネットワーククライアント」で「Windows NT のドメインにログオンする」を設定している場合で、Windows パスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windows パスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「Windows パスワードの変更」の画面で「Microsoft ネットワーク」を選択して「OK」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windows パスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

「Microsoft ネットワーククライアント」で「Windows NT のドメインにログオンする」を設定している場合で、Windows パスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック

- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワード」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの選択」の画面で、「Microsoft ネットワーク」を選択して「変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windows パスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

「Microsoft ネットワーククライアント」で「Windows NT のドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windows パスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Windows パスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック



FAX モデムボード

FAX モデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、FAX 通信機能、データ通信機能などを利用できます。AT コマンドについては、『[AT コマンド](#)』([ここをクリック](#))をご覧ください。

FAX モデムボードについて

ここでは、FAX モデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・ Microsoft Windows 98 のハイパーターミナル
- その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。

FAX 通信機能

本機のデータをダイレクトに FAX に送信できます。
また、本機で FAX を受信でき、効率的に FAX 送受信をサポートします。

最高 56000bps までの各種通信

FAX モデムは、米国 CONEXANT SYSTEMS 社等提唱の K56flex、および V.90 を採用しています。K56flex、および V.90 では、受信時最高 56,000bps、送信時最高 33,600bps のデータ通信が可能です。

電話回線を利用して、最高 56,000bps の全二重データ通信と最高 14,400bps の半二重 FAX 通信ができます。

K56flex および ITU-T V.90 の最大受信速度 56,000bps は、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

FAX モデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線(以降、加入電話回線と呼びます) 総合デジタル通信網(ISDN) ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAX モデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

「技術基準等適合認定について」(P.6)

加入電話回線以外と接続すると、FAX モデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。FAX モデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネスでお使いのお客さまへ～』『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

分岐アダプタ

電話回線のモジュージャックが1つの場合、本機で通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機などのモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタをご購入ください。

接続する電話機などの種類によっては動作しない機種がありますのでご注意ください。

また、接続する電話機などによっては、FAX モデムボードが正常に通信できない場合があります。正常に通信できない場合は、次のいずれかの方法で正常に通信できるようになります。

- ・ 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合はアース線をつなく。
- ・ モデムによる通信の際は、電話機などを取り外す。

通信するときの注意

- ・ 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・ FAX モデムボードに接続できる電話回線は 2 線式のみです。
- ・ 分岐アダプタを使ってパソコンと電話機などの両方を接続している場合、パソコンで回線を使っているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。パソコンの通信が妨害され、切断されることがあります。
- ・ FAX モデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号にあわせた調整が必要です。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカーや保守業者、第1種通信事業者(NTT など)に確認してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)(工場出荷時の設定)に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ FAX を送信する相手が音声応答機能付きの FAX の場合、相手からの音声の内容によっては FAX の送信ができなくなることがあります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14,400bps で FAX の通信ができないことがあります。この場合は通信速度を 9,600bps 以下にしてください。
- ・ 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

COM ポートの設定

FAX モデムボードが標準で搭載されているモデルのポート番号は、変更できません。工場出荷時の状態で使用してください。

Mate セキュリティ / マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をセキュリティ / マネジメントするための機能を備えています。

セキュリティ / マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ / マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。(I/O ロック)
- ・ 本体の盗難やパスワードの解除を防止する。(筐体ロック)
- ・ システム管理者向けと一般ユーザ向けの利用環境を設定し、使用できる機能を制限する。(CyberAccess)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン / オフ機能)

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

スマートカードの利用


以下の別売のオプションを利用することで、本体起動時にスマートカードを差し込むだけでWindows のログイン、スクリーンセーバーのロック解除の際の個人認証をすることができます。なお、本機ではBIOSレベルでの認証(BIOS LOCK)はできません。

- ・ スマートカードリーダー / ライタ(PC カードタイプ) (PK-SM004)
- ・ スマートカードアプリケーション(管理者) (PK-SM005)
- ・ スマートカードアプリケーション(ユーザ) (PK-SM006)
- ・ スマートカード(PK-SM003)

参照▶ スマートカードアプリケーション(管理者) (PK-SM005)に添付のマニュアル

パスワードの設定


スーパーバイザパスワード/ ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOS セットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「Password On Boot」を「Enabled」に設定してください。

 **チェック!** 下記の状態で、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するには、BIOS セットアップメニューの「Security」の「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」にしなければなりません。

- ・ スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOS セットアップメニューの「Security」の「Password On Boot」が「Enabled」に設定されている場合

RSA SecurPC

RSA SecurPC は、ファイルやフォルダをパスワード付きで暗号化し、データの漏洩防止やプライバシーを保護します。また、Windows のログオン/ ログオフ時にファイルやフォルダを暗号化/ 復号化したり、暗号化したファイルを電子メールなどで相手に送信したときもパスワードを入力するだけで復号化できます。

 **参照** 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/ 追加」の「RSA SecurPC」

I/O ロック

I/O ロックは、外部とのデータ交換の手段である I/O (フロッピーディスクドライブ) を利用できないようにする機能です。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションソフトをインストールすることを防止することができます。

 **参照** 『PART3 システム設定』「Security の設定」の「I/O ロック」(P.119)

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「VirusScan」を使用します。

 **参照** 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/ 追加」の「VirusScan」

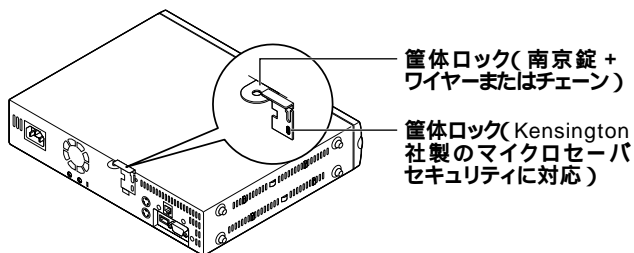
筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体の盗難やスーパーバイザ/ ユーザパスワードの解除の防止に役立てることができます。筐体ロックは市販のロック付き盗難防止ケーブルを使用することができます。一つは南京錠とワイヤーまたはチェーンを利用することができ、もう一つは Kensington 社製のマイクロサーバセキュリティシステムに対応しています。なお、Kensington 社製のマイクロサーバセキュリティシステムの入手方法については、次の国内総販売代理店にお問い合わせください。

日本ボラデジタル株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番地2号はごろもビル

TEL : 03-3537-1070 FAX : 03-3537-1071



ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。

参照 ▶ 「PART2 周辺機器を利用する」『ケーブルストッパの取り付け/取り外し』(P.87)

エンドユーザ管理

本機に添付されている CyberAccess を使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。また、別売の CyberAccess Ver2.0 により、管理者 PC から一括して設定、変更することができます。

参照 ▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「CyberAccess」

障害・構成管理機能

ソフトウェアパワーオフ機能

Windows 動作中に誤って電源スイッチに触れるなど、不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。

参照 ▶ 「電源」(P.22)

SMART 機能

ハードディスクドライブの異常を監視します。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T (Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。

本機能を利用するためには、別売の DMITool Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EX ホスト版付)が必要です。

クライアントモニタリング

離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売の PCMANAGER Ver2.0 を利用して一括でクライアント PC の障害情報を監視できます。

本機能を利用するためには、別売の DMITool Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EX ホスト版付)が必要です。

資源管理

本機のメモリ容量、PCI スロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

状態監視

筐体内温度、電圧、CPU ファン監視機能から障害管理機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

運用管理機能

ネットワークブート

別売の ESM PRO/Client Manager Ver3.0 以上により、OS のセットアップ、BIOS フラッシュ(BIOS ROM の書き換え) BIOS 設定変更の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアント PC に対して一括でリモート操作することができます。

参照 ▶ 「PART3 システム設定」の「Advanced の設定」(P.113)

一括ファイル配信

管理者 PC からリモート操作で、複数のクライアント PC に対して一括でファイルやアプリケーションの配信が行えます。別売の ESM PRO/Delivery Manager が必要です。

リモートコントロール

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作()を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作することができます。その際にはシステム管理者のマシンに別売の DMITool Ver 8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付) または pcAnywhere (Symantec 社製) が、クライアントのマシンには別売の DMITool Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EX ホスト版付) が必要です。

なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

アプリケーションによっては、できないものがあります。


リモートパワーオン機能(Remote Power On 機能)

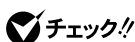
LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。

管理パソコンからのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを発信する管理パソコンに別売の DMITOOOL Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付)が、パワーオンメッセージを受信するパソコンに別売の DMITOOOL Ver8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EX ホスト版付)と BIOS の設定が必要です。

 **参照** BIOS の設定 「PART3 システム設定」「Advanced の設定」(P.113)および「Security の設定」(P.117)
「電源」「電源の管理について(APM モード/ACPI モード)」(P.31)



チェック!

- ・ ACPI モードでは、リモートパワーオン機能で電源を入れることができません。APM モードでのみ可能です。ただし、スタンバイ状態からの復帰については ACPI モードでも可能です。
- ・ 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して、Windows 98 を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。

周辺機器を利用する

別売の周辺機器の取り付け/取り外し方法や注意事項などを説明しています。

この章の読み方

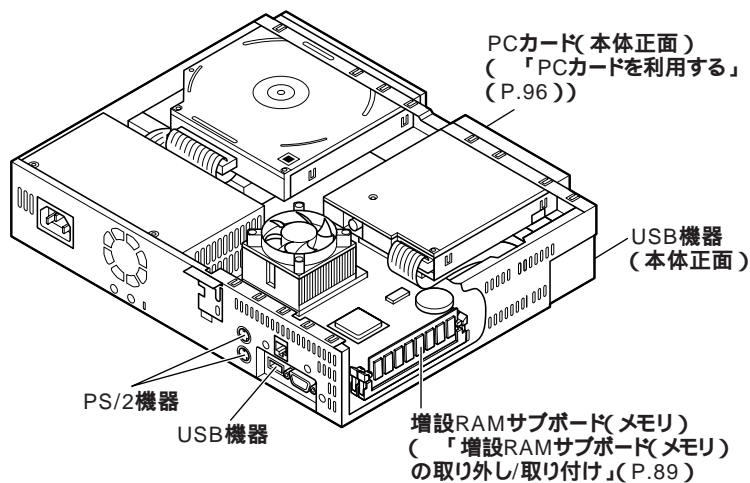
次ページの「接続できる周辺機器」、「接続にともなう注意点 (P.77)」を読んだ後に、目的にあわせて次に該当するページを読んでください。

この章の内容

接続できる周辺機器	76
接続にともなう注意点	77
本体カバー類の取り外し	82
ケーブルストッパの取り付け/取り外し	87
増設RAMサブボード(メモリ)の取り外し/取り付け	89
FAXモデムボードの取り外し/取り付け	93
PCカードを利用する	96
ストラップスイッチの設定	102

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を取り付けられます。



接続にともなう注意点

周辺機器を取り付ける場合、次のようなことに注意してください。

接続前の確認

取り付けたい周辺機器は、本機で使えるものですか？

取り付けたい周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルで確認するか、製造元に問い合わせてください。なお、NEC製の周辺機器で接続可否の確認がとれているものについては、次のWebサイトで紹介しています。

「PICROBO」

<http://www.nec.co.jp/picrobo/>

リソースは確保されていますか？

周辺機器を使うには、「リソース」が必要です。「デバイスマネージャ」で、その周辺機器で使用されるリソースが空いているかどうか確認してください。リソースが足りない場合は、使わない機器や機能のリソースを空けて、その分を取り付けたい周辺機器が使えるよう設定を変更します。

プラグ&プレイ セットアップについて

周辺機器の中には、デバイスドライバ(デバイスのためのソフトウェア)のセットアップが必要なものがあります。

プラグ&プレイとは、取り付けたハードウェアを自動的に検出してセットアップを行うWindows 98の機能です。

新しいハードウェアを取り付けると、次に電源を入れたときにWindows 98によって自動的に新たなハードウェアが検出され、必要に応じてデバイスドライバウィザードが起動されます。外付けの周辺機器を接続した場合は、本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

周辺機器にデバイスドライバのフロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されている場合は、周辺機器のマニュアルの指示に従ってセットアップを行ってください。

デバイスドライバの追加について

- ・ 周辺機器によっては、デバイスドライバのセットアップが必要な場合があります。周辺機器のマニュアルをご覧ください、必要なデバイスドライバを組み込んでください。
- ・ デバイスドライバを組み込んだ後、本機の再起動を求められることがあります。その際には他の操作をせずに直ちにWindowsを再起動してください。
- ・ デバイスドライバを組み込んだ後の再起動の際には、通常よりも時間がかかることがあります。正常に再起動されるまで電源は切らないでください。

接続時に注意すること

⚠ 注意



感電注意

- ・ 雷が鳴り出したら、本機や電源ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け/取り外しをしたりしないでください。
落雷による感電のおそれがあります。
- ・ 濡れた手で触らないでください。
電源ケーブルがACコンセントに取り付けられているときに、濡れた手で本体に触ると、感電の原因になります。
- ・ 電源ケーブルがACコンセントに取り付けられているときは、本体のカバー類を取り外さないでください。
感電の原因になります。
- ・ 周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
電源ケーブルがACコンセントに取り付けられたまま周辺機器の取り付け/取り外しをすると、本機や周辺機器の故障、場合によっては感電の原因となります。



けが注意

- ・ 本体内部に手を入れるときは、指をはさんだりぶついたりしないように注意してください。

⚠ 注意



高温注意

- ・本機の使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをすることがあります。カバーを外す場合は、電源を切った後、30分以上たってから行うことをおすすめします。



感電注意

- ・本体を、カバーを外した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。



発火注意

- ・周辺機器は、このマニュアルや周辺機器のマニュアルに従って正しく取り付けてください。正しく取り付けられていないと、発煙や火災の原因となります。



発火注意

接続がうまくできない場合

ケーブルは正しく取り付けられていますか？

見落としがちなことですが、本機や周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたりすることはよくあります。ケーブルがきちんと取り付けられているか、確認してください。

デバイスドライバは組み込みましたか？最新のものですか？

周辺機器を取り付けてもデバイスドライバが組み込まれていないと、使うことはできません。周辺機器のマニュアルをご覧ください。デバイスドライバを組み込んでください。

また、周辺機器のデバイスドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「デバイスドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、デバイスドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器の製造元に問い合わせて、最新のデバイスドライバを入手してください。なお、NEC製の最新ドライバはPICROBO(<http://www.nec.co.jp/picrobo/>)で提供しています。

READMEファイルや「補足説明」を読みましたか？

アプリケーションに付いているREADMEファイルには、マニュアルやヘルプに記載されていない重要な情報が掲載されていることがあります。

また、「補足説明」には、本機をご利用にあたっての注意事項や、マニュアルには記載されていない最新の情報について説明しています。添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に入っている「Mate/Mate R電子化マニュアル」からご覧になれます。また、以下の方法でもご覧になれます。

・「スタートボタン」「プログラム」「補足説明」

周辺機器を複数取り付けただけで、何が原因かわからなくなっていますか？
このような場合は、取り付けした機器をいったん全部外します。その後、1つずつ取り付けては本機を起動させるという作業を繰り返します。本機が起動しないなどの現象を発生させる機器があったら、その機器に問題があります。リソースの設定やデバイスドライバの設定などが正しく設定されているか、確認してください。

トラブルが起きていませんか？

『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&Aからあてはまりそうなトラブルを探してください。あてはまる項目が見つからない場合は、「トラブルを解決するには(ヒント)」をご覧ください。


リソースの競合が起こったら

PCカードは、プラグ&プレイに対応しているため基本的には設定不要ですが、本機が作動しない場合は、リソースの競合が起こっているかもしれませんのでここをお読みください。

最もリソースの競合が起きやすいのは、本機に新しい機器が追加された場合です。新しい機器が検知されたときにシステムの状態が調べられます。


新しい機器がプラグ&プレイに対応している場合は、リソースの競合が起きないように自動的に設定されます。新しい機器がプラグ&プレイに対応していない場合は、リソースの競合が起こるとドライバを組み込めなくなります。本機が起動しなくなるような競合に対しては、二重三重の保護機能が働くように設定されているからです。

リソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」タブで確認することができます。ドライバの異常、リソースの競合など何らかの障害があると、アイコンに黄色い「！」マークや赤い「×」マークが表示されます。

 **チェック!** USB接続のキーボードをご使用の場合は、PS/2互換マウスポートに黄色い「！」が表示されますが、異常ではありません。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

- 1 「リソース」タブを開く
- 2 「自動設定を行う」のチェックを外す
- 3 「リソースの種類」から競合しているリソースを選択し、ダブルクリック
- 4 表示されたリソースの設定値を変更する

 **チェック!** 選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。なお、本機のリソースについては、「PART4 付録」の「割り込みレベル・DMAチャンネル (P.130)」をご覧ください。

本体カバー類の取り外し

ここでは、周辺機器や内蔵機器を取り付けるときなどに必要なカバー類の取り外し方について説明します。

カバーの取り外し

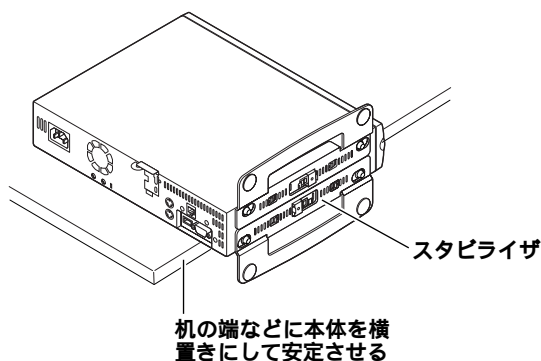
メモリなどの内蔵機器を取り付ける場合は、本体のカバーを取り外す必要があります。

- 1 本機の電源を切る
- 2 本体に接続されているすべてのケーブル(電源ケーブル、アース線など)を取り外す
- 3 盗難防止用の錠を使用している場合は、取り外す
- 4 横置きにしている場合は、手順8に進む
縦置きにしている場合は、本体を横に置く

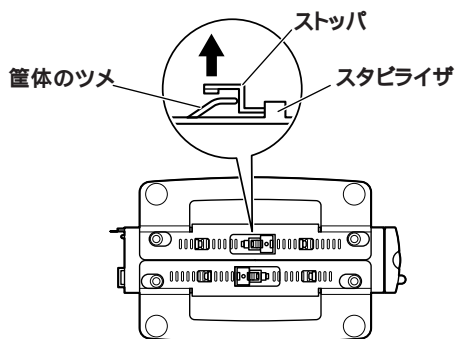
チェック!! スタビライザを取り外したときに、本体が衝撃を受けないよう、机の端などでスタビライザの取り外しを行ってください。

メモ

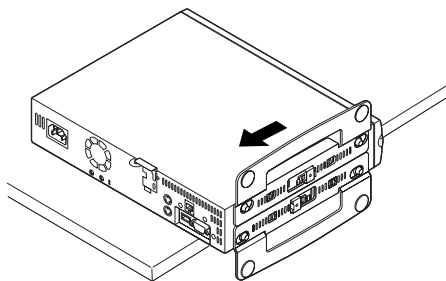
本体を横に置くときは、机やテーブルなどを傷付けたりしないように、厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。



- 5 スタビライザのストッパを手前に引いて、筐体のツメからストッパを外す



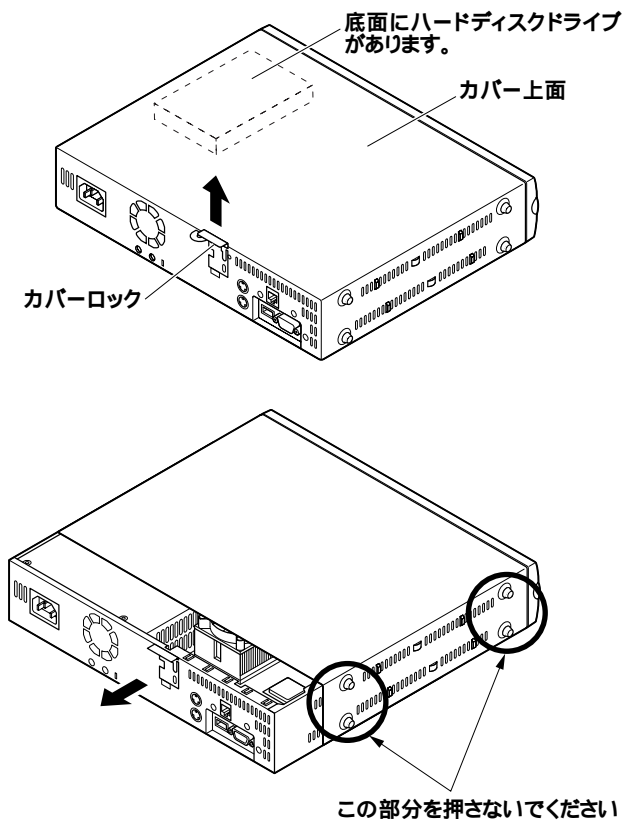
- 6 上側に付いているスタビライザを左方向に引いて、本体から取り外す



- 7 もう一方のスタビライザも手順5、手順6と同じ方法で取り外す

8 カバー上面を手で抑え、カバーロックを上にはき上げたまま、手前に引き出すようにして、本体をカバーから取り外す

チェック!! カバーを取り外すと、ハードディスクドライブの基板面があらわれます。この部分を触ると、ハードディスクドライブの故障の原因となりますので、触らないように注意してください。

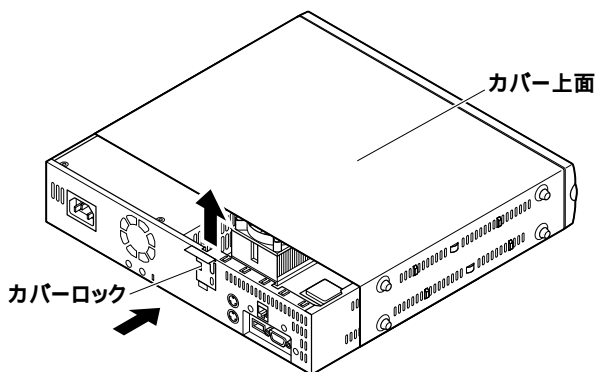


カバーの取り付け

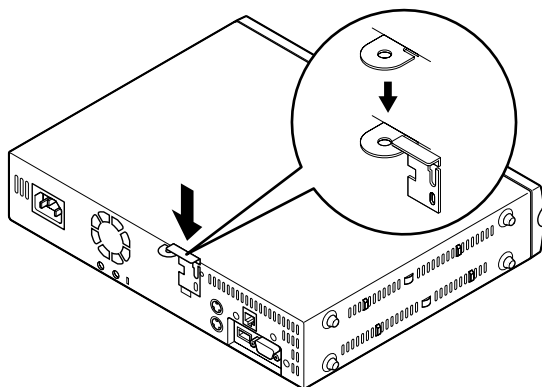
カバーを取り付けるときには、次のように作業すると取り付けやすくなっています。

- 1 カバー上面を手で抑え、カバーロックを上引き上げたまま、カバーの中に本体を押し込む

チェック!! 本体をカバーに押し込むときは、本体の正面に手を触れないでください。誤ってフロッピーディスクドライブが本体から外れることがあります。

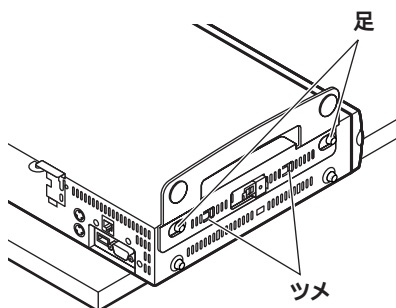


- 2 本体を奥まで押し込んで、筐体ロックの切り欠きにかバーロックを差し込むようにして、カバーロックを押し下げる

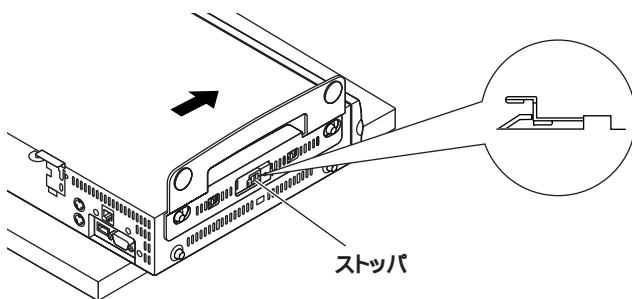


- 3** 横置きで使用する場合は、手順7に進む
縦置きで使用する場合は、机の端などに本体を横置きにし、
本体を安定させる

- 4** 片方のスタビライザを本体のツメと足に合わせる



- 5** スタビライザを矢印方向にストッパがロックされるまでスライドする



- 6** もう一方のスタビライザも、手順4、手順5と同じ方法で取り付け、縦置きにする

- 7** 盗難防止用の錠を使用する場合は、錠を取り付ける

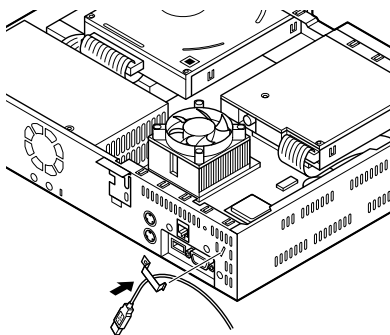
- 8** ケーブル類(電源ケーブル、アース線など)を必要に応じて取り付ける

ケーブルストップパの取り付け/取り外し

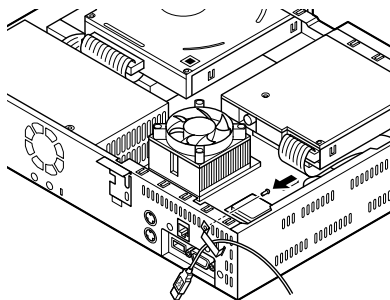
キーボードやマウスの盗難防止とともに、ケーブル抜け防止のために、本機に添付されているケーブルストップパでケーブルを本体に固定します。

ケーブルとケーブルストップパの取り付け

- 1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)
- 2 ケーブルストップパの爪(ネジ穴の空いていない方)を本体の溝に差し込み、キーボード、PS/2接続マウスケーブルの上からケーブルストップパを被せる



- 3 ケーブルストップパのネジ穴と本体のネジ穴を合わせて、本体側からケーブルごとケーブルストップパを、本機に添付のネジで止める

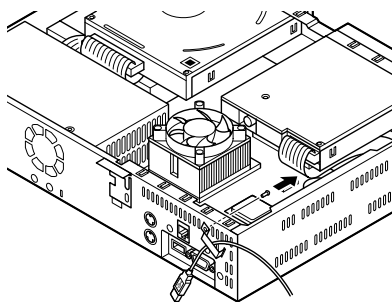


- ✔ **チェック!** ネジが止めにくい場合は、フロッピーディスクドライブを取り外してから、ネジを止めてください。フロッピーディスクドライブの取り外し方は、「FAXモデムボードの取り外し」(P.93)を参照してください。

4 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.85)

ケーブルとケーブルストップの取り外し

- 1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)
- 2 本体内側からネジを外して、ケーブルストップとケーブルを本体から取り外す



- ✔ **チェック!** ネジを外しにくい場合は、フロッピーディスクドライブを取り外してから、ネジを外してください。フロッピーディスクドライブの取り外し方は、「FAXモデムボードの取り外し」(P.93)を参照してください。

3 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.85)

- ✔ **チェック!** 取り外したネジとケーブルストップは、紛失しないように、手近な箱や袋などに保管してください。

増設RAMサブボード(メモリ)の取り外し/取り付け

大量のメモリを必要とするOSやアプリケーションを使用する場合には、別売の増設RAMサブボードを取り付けることで、メモリを増やすことができます。

取り付け前の確認

本機に増設RAMサブボードを取り付ける前に、取り付けられる増設RAMサブボード、取り付け順序、スロットの位置を確認します。

取り付けられる増設RAMサブボード

本機には、次の増設RAMサブボードを1枚単位で、最大2枚まで取り付けられます。

型名	メモリ容量	ECC対応
PK-UG-M015	32MB	-
PK-UG-M016	64MB	-
PK-UG-M017	128MB	-

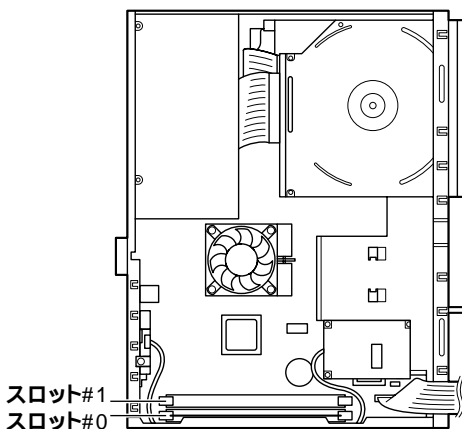
スロットへの取り付け順序

必ずスロット番号が小さい方から埋まるように取り付けてください。スロット#0から順番に取り付けることとなります。

増設RAMサブボード組み合わせ例

合計容量	スロット#0	スロット#1
64MB	64MB	-
	32MB	32MB
96MB	64MB	32MB
128MB	128MB	-
	64MB	64MB
160MB	128MB	32MB
192MB	128MB	64MB
256MB	128MB	128MB

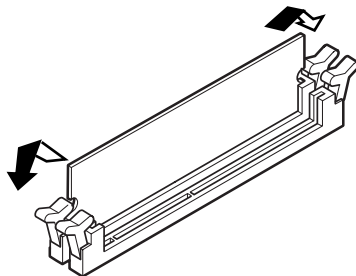
スロットの位置



増設RAMサブボードの取り外し

✓チェック!! 増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードを破損させる原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

- 1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)
- 2 増設RAMサブボードの左右のレバーを外側に広げる



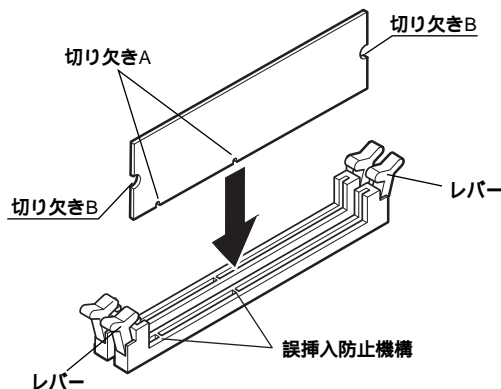
- 3 増設RAMサブボードを上へ引き抜くようにして取り外す
取り外した増設RAMサブボードは静電気防止用の袋などに入れて保管してください。
- 4 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.85)

増設RAMサブボードの取り付け

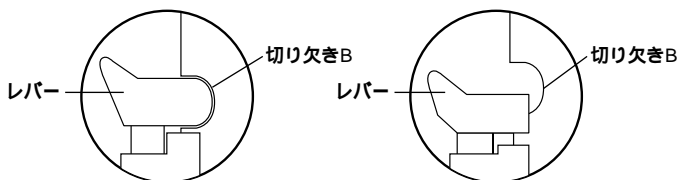
✓チェック!! 増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードを破損させる原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

- 1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)
- 2 増設RAMサブボードを切り欠きAの位置と誤挿入防止機構の位置を確認し、増設RAMサブボード用コネクタに垂直に差し込み、取り付ける
スロット#0、#1の順番に取り付けてください。

✓チェック!! 増設RAMサブボードには向きがあります。逆には差し込めなくなってしまいますが、向きを間違えたまま無理に差し込むと故障の原因になりますので注意してください。



3 左右2ヶ所のレバーが切り欠きBに掛かるように、増設RAMサブボードをしっかりと押し込む



- ✔ **チェック!!** 増設RAMサブボードがしっかりと押し込まれたことを確認してください。しっかりと押し込まれていないと故障の原因となります。

4 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.85)

メモリ容量の確認方法

「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「システムのプロパティ」の「全般」タブ(Windows 95の場合は「情報」タブ)の中にメモリの容量が表示されます。

- ✔ **チェック!!**
- ・メモリの容量を確認すると、搭載されている容量より若干少ない容量が表示されることがあります。これはメインメモリがシステムに割り当てられるためで、故障ではありません。「PART3 システム設定」の「Mainの設定」(P.112)を見て、「Extended Memory」で確認してください。
 - ・電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの容量によって変わってきます。これは、メモリの初期化のためです。256MBに増設した場合、約6秒かかります。

メモ

表示されたメモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、本機で使えるメモリを取り付けているかを確認してください。

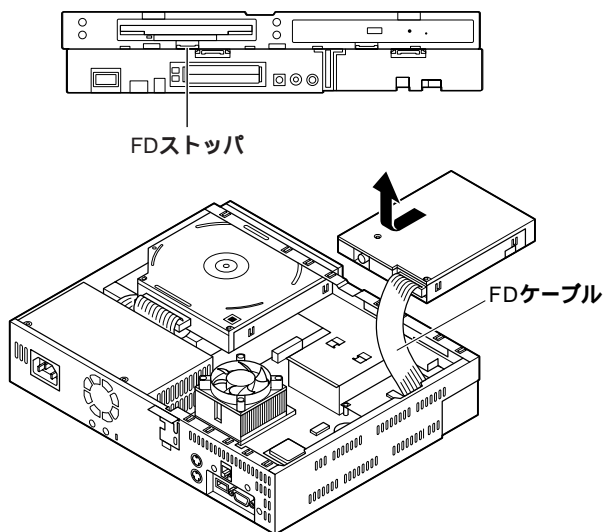
FAXモデムボードの取り外し/取り付け

FAXモデムボードの取り外し

チェック!! FAXモデムボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で、FAXモデムボードを扱うと、FAXモデムボードを破損させる原因となります。FAXモデムボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、FAXモデムボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に端子の部分を手で触れないように注意してください。

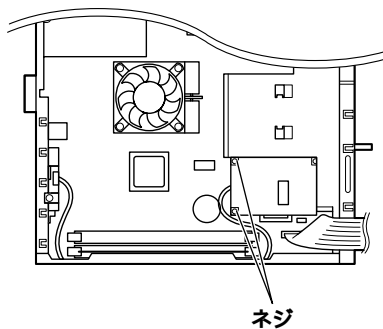
1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)

2 FDSTOPPAを上を持ち上げロックを解除しながら、FDSTOPPAを押し込み、フロッピーディスクドライブを取り外す



- ✔ **チェック!!** フロッピーディスクドライブを取り外すときは、FDケーブルを傷めないように注意してください。

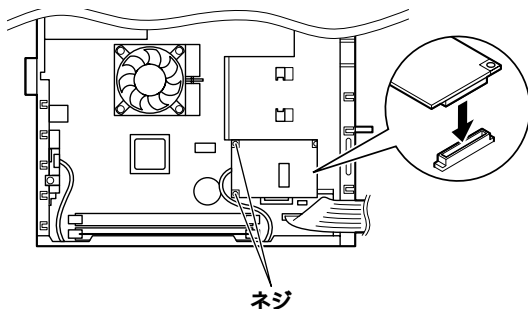
- 3** FAXモデムボードのネジ2本を取り外し、FAXモデムボードを上
に引き抜くようにして取り外す



FAXモデムボードの取り付け

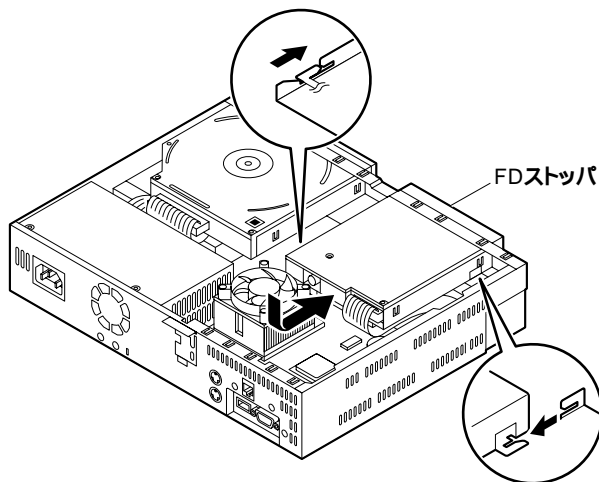
- 1** FAXモデムボードを取り外したときと逆の手順で、まっすぐ下
に差し込み、ネジ2本で本体に取り付ける

- ✔ **チェック!!** FAXモデムボードの端子部分や、ボード上の部品、ハンダ付け面に触れない
ように注意してください。



- 2 フロッピーディスクドライブの突起と本体側の溝2ヶ所をあわせて、FDストッパが「カチッ」と音がしてロックされるまで、フロッピーディスクドライブを前に押し込み、取り付ける

チェック!! フロッピーディスクドライブを取り付けるとき、FDケーブルがフロッピーディスクドライブの下を通るように注意してください。



- 3 「カバーの取り付け」の手順で、カバーを取り付ける(P.85)

PCカードを利用する

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を取り付けることができます。

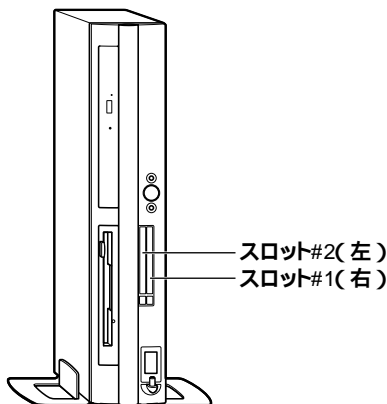
用語 PCカード

PCカードとは、**社団法人日本電子工業振興協会 (JEIDA)**と**PCMCIA (Personal Computer Memory Card International Association)**との間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。

PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモリカードやモデムカード、SCSIインタフェース対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカード (ATAカードなど) もあります。

PCカードスロットについて

- TYPE IかTYPE IIのPCカードを左右のスロットに1枚ずつ2枚まで、または左右のスロットをあわせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- Card Bus対応のPCカードは両方のソケットのどちらでも使え、同時に両方のソケットで使うことができます。
なお、本機は、ZVポートに対応していません。



使用上の注意

PCカードの取り扱い

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・ 濡らさないでください。
- ・ 重いものを載せたり、ねじ曲げたりなどしないでください。
- ・ ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・ PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・ 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

⚠ 注意



高温注意

本機の使用直後はPCカードが熱くなっていますので、取り外し/取り付けにご注意ください。

Windows 98使用中の取り扱い

- ・ 本機がスタンバイ状態のときは、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データを消失させてしまうことがあります。
- ・ PCカードを抜き取っても、警告ダイアログが表示されない場合があります。
- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは、認識されない場合があります。
- ・ PCカードが2枚挿入されている状態では、PCカードを2枚同時に抜かないでください。
- ・ 一度CardBus対応PCカードを使用したスロットに、通常のPCカード(PCMCIA2.1/JEIDA4.2)を挿入した場合、正常に動作しない場合があります。この場合は、Windowsの再起動を行ってください。
- ・ ATAカードを挿入しているときにスタンバイ状態にすると、カードを挿入していないときより復帰する時間がかかります。
- ・ PCカードを使用している間は、自動的にスタンバイ状態にならないようにしてください。また、スリープボタンを押したり、「スタート」ボタン「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選択しないでください。スタンバイ状態から復帰中または復帰してからPCカードをセットすると、パソコンが正常に動作しないことがあります。

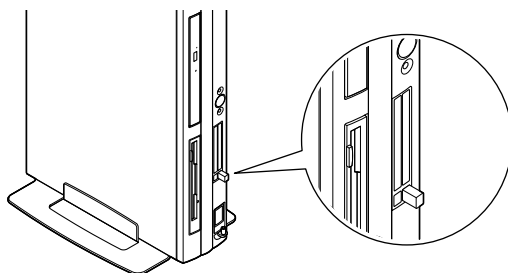
- マルチファンクションカードとATAカードを同時に使用する場合は、スロット#1にマルチファンクションカードを、スロット#2にATAカードを挿入してご使用ください。
- CardBusカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生する場合があります。このとき、システムを再起動することで正常に組み込みが完了できる場合があります。
- ACPIモードにおいて、本体PCカードスロットでSCSIまたはIDEインタフェースのCardBus対応PCカードをご使用の場合、正常にスタンバイ状態から復帰できない場合があります。これらのPCカードをご使用の場合には、スタンバイ状態にする前にPCカードを取り出してから、スタンバイ/スタンバイから復帰を行ってください。
- SCSIカードに接続したハードディスクに対して、FDISKコマンドを実行する場合、電源が入っている状態で、SCSIカードを抜き差ししないでください。SCSIカードを抜き差ししてしまった場合は、Windowsを再起動してからFDISKコマンドを実行してください。

PCカードの利用について

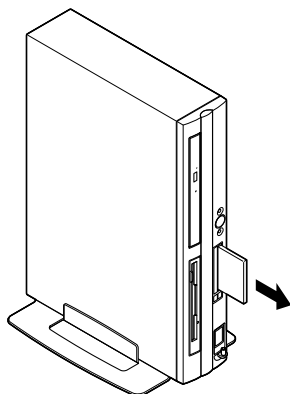
PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、「PART4 付録」割り込みレベル・DMAチャンネル(P.130)をご覧ください。割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

PCカードの取り付け

- 1 PCカードイジェクトボタンを指で軽く押し込んでから指を離す
PCカードイジェクトボタンが飛び出ます。



- 2 飛び出したPCカードイジェクトボタンをロックされるまで押し込む
ダミーカードが前に出てきます。



- 3 ダミーカードを取り出す


✓チェック!! 取り出したダミーカードは、紛失ないように手近な箱や袋などに保管してください。

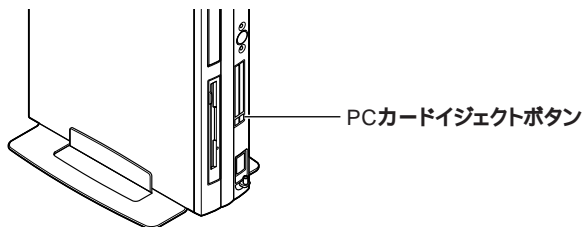
- 4 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして水平に静かに差し込む

⚠注意

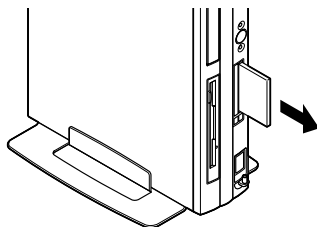
PCカードには表と裏があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損させるおそれがあります。

PCカードの取り外し

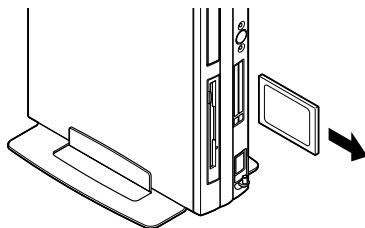
- 1 タスクバーにあるPCカードのアイコンをダブルクリック
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 取り出したいPCカードをクリック
- 3 「終了」ボタンをクリック
しばらくすると、「このデバイスは安全に取り外せます」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリック
- 5 PCカードイジェクトボタンを指で軽く押し込んでから指を離す
PCカードイジェクトボタンが飛び出ます。



- 6 飛び出たPCカードイジェクトボタンをロックされるまで押し込む
カードが出てきます。



7 PCカードを静かに取り出す



8 ダミーカードを差し込む

⚠ 注意

PCカードスロットをむき出しの状態のままにしていると、PCカードスロットにゴミやほこりが入り、故障の原因となりますので、PCカードを使用しない場合は、PCカードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。

ストラップスイッチの設定

BIOSセットアップメニューで設定したパスワードを解除したいときに、ストラップスイッチを利用します。

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

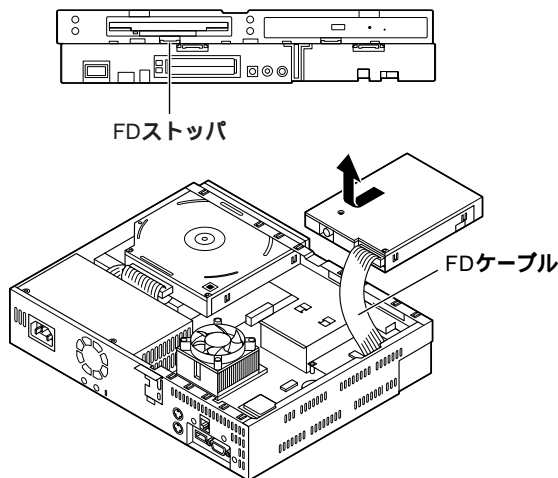
本機では、BIOSセットアップメニューを使用してスーパーバイザパスワードとユーザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れてしまった場合、次の方法でパスワードを解除することができます。通常のパスワードの解除の方法は、「PART3 システム設定」の「Securityの設定」(P.117)をご覧ください。

- ☑ **チェック!!** 無断でパスワードを解除することを防ぐために、セキュリティロックに錠を取り付けることをおすすめします。

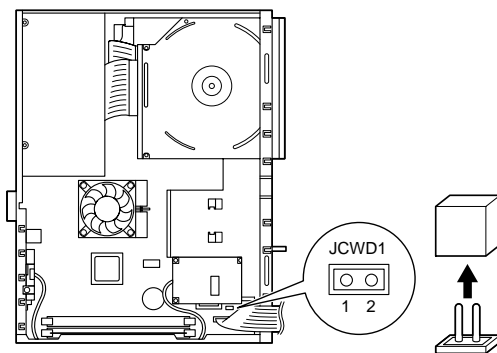
1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)

2 FDストッパを上を持ち上げロックを解除しながら、FDストッパを押し込み、フロッピーディスクドライブを取り外す

- ☑ **チェック!!** フロッピーディスクドライブを取り外すときは、FDケーブルを傷めないように注意してください。

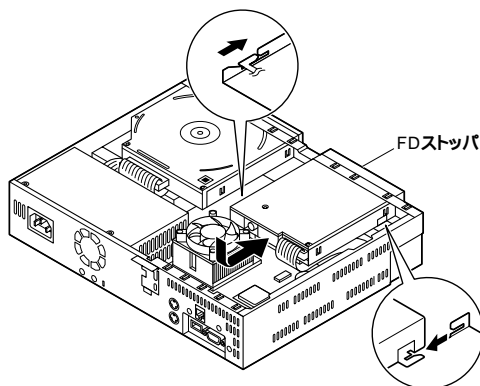


- 3 ストラップスイッチのジャンパを次の図のように引き抜く
抜いたジャンパはなくさないように保管してください。



- 4 フロッピーディスクドライブの突起と本体側の溝2ヶ所をあわせて、FDストッパが「カチッ」と音がしてロックされるまで、フロッピーディスクドライブを前に押し込み、取り付ける

チェック! フロッピーディスクドライブを取り付けるとき、FDケーブルがフロッピーディスクドライブの下を通るように注意してください。

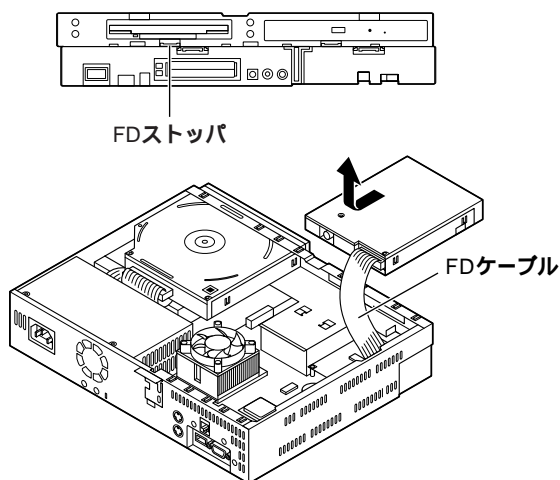


- 5 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.85)
6 電源を入れ、Windowsを起動させる

チェック! 必ずカバーを取り付けた後、電源を入れてください。

- 7 Windowsを終了させ、電源を切る
- 8 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.82)
- 9 FDストッパを上を持ち上げロックを解除しながら、FDストッパを押し込み、フロッピーディスクドライブを取り外す

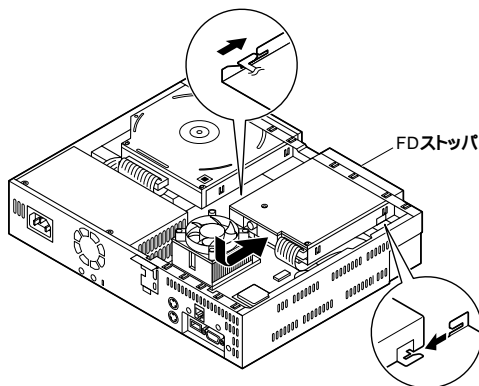
チェック!! フロッピーディスクドライブを取り外すときは、FDケーブルを傷めないように注意してください。



- 10 手順3で引き抜いたジャンパを元のようにストラップスイッチに差し込む

- 11** フロッピーディスクドライブの突起と本体側の溝2ヶ所をあわせて、FDストッパが「カチッ」と音がしてロックされるまで、フロッピーディスクドライブを前に押し込み、取り付ける

チェック!! フロッピーディスクドライブを取り付けるとき、FDケーブルがフロッピーディスクドライブの下を通るように注意してください。



- 12** 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.85)
以上で、パスワード解除のストラップスイッチの設定は終了です。

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	108
Mainの設定	110
Advancedの設定	113
Securityの設定	117
Powerの設定	120
Bootの設定	124

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。工場出荷時は、BIOSセットアップメニューは英語で表示されます。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

- 1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す
以下の画面が表示されます。

メニューを日本語に設定した場合は、「F2 :BIOSセットアップメニューを起動します、F12 :ネットワークブートします。」と表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility			
Main	Advanced	Security	Power Boot Exit
System Time :	[hh:mm:ss]		Item Specific Help
System Date :	[mm/dd/yyyy]		<Tab>, <Shift-Tab>, or
Language :	[English(US)]		<Enter> selects field
Legacy DisketteA :	[1.44/1.25 MB 3.5"]		
▶ Primary Master :	[x x x x x x x]		
▶ Primary Slave :	[None]		
▶ Secondary Master :	[x x x x x x x]		
▶ Secondary Slave :	[None]		
▶ Keyboard Features			
Boot-time Diagnostic Screen	[Disabled]		
System Memory	640KB		
Extended Memory	x x KB		
BIOS Revision	x x x x x x x		
F1 Help	Select Item	- / + Change Values	F9 Step Defaults
Esc Exit	Select Menu	Enter Select▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

設定項目	説明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Setup Defaults	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。(【F9】を押す方法と同じ)
Discard Changes	変更前の値に戻します。
Save Changes	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

BIOSセットアップメニューの内容を、工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
デフォルト値(工場出荷時の設定値)を読み込みます。
- 5 【F10】を押す
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。
- 6 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

System Time()

現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

System Date()

日付を「月/日/年」で入力します。

Language()

BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」です。

Legacy Diskette A

フロッピーディスクドライブのモードを選択します。工場出荷時は「1.44/1.25 MB 3 1/2"」に設定されています。「Disabled」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

設定項目	設定内容
Legacy Diskette A	Disabled
	360 Kb 5 1/4"
	1.2 MB 5 1/4"
	720 Kb 3 1/2"
	1.44/1.25 MB 3 1/2"
	2.88 MB 3 1/2"

網かけの部分 1.44/1.25 MB は、工場出荷時の設定値です。

Primary Master

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

Primary Slave

本項目には何も表示されません。

Secondary Master

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブ)が表示されます。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

Secondary Slave

本項目には何も表示されません。

Keyboard Features


キーボード機能を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Num Lock	Auto / On/Off	起動時にNum lock を有効にするかを設定します。
Key Click	Disabled / Enabled	キークリック音を使用するかを設定します。
Keyboard auto-repeat rate	30/sec、26.7/sec、21.8/sec 18.5/sec、13.3/sec、10/sec、 6/sec、2/sec	キーリPEAT間隔を設定します。
Keyboard auto-repeat delay	1/4 Sec、1/2 sec、3/4 Sec 1 sec	キーリPEATが開始されるまでの待ち時間を設定します。
Legacy USB Support	Enabled / Disabled	USBレガシー機能を設定します。工場出荷時は「Enabled」です。 Windows NTでPS/2接続のキーボードの場合は「Disabled」に、USB接続のキーボードの場合は「Enabled」に設定してください。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

Boot-time Diagnostic Screen

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Disabled」に設定するとNECロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「Disabled」です。

 **チェック!!** エラーメッセージが表示された場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A」をご覧ください。

System Memory

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

Extended Memory

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

BIOS Revision

搭載されているBIOSのバージョンを表示します。

Processor Serial Number

Pentium®IIIプロセッサの「Processor Serial Number」機能を設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

Advancedの設定

Advancedの設定

- ()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。
- ()マークが付いている設定項目は、ACPIモード使用時に設定が無効になります。

Plug & Play O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「Yes」を選択します。工場出荷時は「Yes」に設定されています。Windows NT 4.0をご利用の場合は「No」に設定してください。

Reset Configuration Data

PCカードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「Yes」を選択します。工場出荷時は「No」に設定されています。ただし、「Yes」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「No」に戻ります。

PCI Configuration

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。


Cache Memory

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

I/O Device Configuration

入出力機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Floppy Disk Controller	Disabled / Enabled / Auto	フロッピーディスクコントローラの使用を設定します。工場出荷時は「Enabled」です。「Disabled」ではフロッピーディスクコントローラが使用できなくなります(I/Oロック)。
Base I/O Address	Primary / Secondary	フロッピーディスクコントローラのI/Oベースアドレスを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

 参照 I/Oロック 「Security」の設定 (P.119)

Large Disk Access Mode

 **チェック!** 本項目の設定は変更しないでください。

Local Bus IDE adapter

内蔵用のIDEアダプタを使用するかどうかを設定します。工場出荷時は「Both」に設定されています。

QuickBoot Mode

「Enabled」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。

DMI Event Logging

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
View DMI Event Log	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
Clear All DMI Event Logs	No / Yes	「Yes」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
Event Logging	Enabled / Disabled	「Enabled」ではDMIイベントログを記録します。
Mark DMI Events As Read	Yes/No	【Enter】を押し、「Yes」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

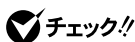
網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

LANDesk(R) Service()

本体BIOSに標準搭載しているLANDesk Service機能の設定を行います。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。



チェック!!

LANDesk(R) Serviceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0が必要です。



参照

「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.69)

Restore On AC/Power Loss

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。

設定項目	設定内容	説明
Restore On AC/Power Loss	Power Off	AC投入時に電源は入りません。
	Last state	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態で、AC電源が切れた場合は、電源が入りません。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Power On	AC投入時に電源が入ります。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

On PME()

PCIデバイス(LANボード等)によって電源を入れます。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Power On」に設定します。工場出荷時は「Stay Off」に設定されています。

メモ

PME(PCI Power Management Event)とは、管理者側のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能により起動することを指示します。

参照

リモートパワーオン機能 「PART1 本機の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能 (P.69)」「PART1 本体の構成各部」の「電源」の「電源の管理について(APMモード/ACPIモード)」(P.31)

Summary Screen

「Enabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

Securityの設定

Securityの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- チェック!** スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」および「PART2 周辺機器を利用する」 「ストラップスイッチの設定」 (P.102)を印刷しておくことをおすすめします。

Supervisor Password Is

スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。工場出荷時は「Clear」です。

設定項目	設定内容	説明
Supervisor Password Is	(設定項目はありません)	「Set」が表示された場合、スーパーバイザパスワードが設定されています。 「Clear」が表示された場合、スーパーバイザパスワードが設定されていません。

Set Supervisor Password

スーパーバイザパスワードを設定します。

設定項目	設定内容	説明
Set Supervisor Password	(パスワードを設定します)	項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとスーパーバイザパスワードの設定画面になります。

User Password Is

スーパーバイザパスワードと同じ表示です。

Set User Password

スーパーバイザパスワードと同じ設定です。

- チェック!** ご購入元、BIT-INN、NECフィールドینگ支店・営業所に本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

メモ

スーパーバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

Password On Boot

本機の起動時にパスワード入力を行うかの設定を行います。リモートパワーオン機能を利用するときは、「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」に設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

Fixed disk boot sector

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定を行います。「Write Protect」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「Normal」です。

Diskette Access

下記の設定の後、「Supervisor」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。工場出荷時は「Supervisor」です。

- ・ スーパーバイザ/ユーザパスワードを設定
- ・ 「Password On Boot」を「Enabled」に設定

Network Boot Setting

この項目にカーソルをあわせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Keyboard/ Mouse Lock	Disabled/ Enabled	「Enabled」を選択すると、リモート起動時(OSが起動されるまで)にキーボード/マウスをロックします。
BIOS LOCK	Enabled/ Disabled	「Disabled」を選択すると、「Password On Boot」で「Enabled」が設定されていてリモート起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定した場合に表示されます。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

チェック!! ここでのリモート起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能により起動することを指します。

参照 リモートパワーオン機能 「PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」(P.69)

Virus check reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」,「Daily」,「Weekly」,「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」です。

System backup reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」,「Daily」,「Weekly」,「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

メモ

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューでフロッピーディスクドライブAの設定を「Disabled」にすることでロックを有効にすることができます。(P.110)

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定により制限することができます。もし、これらのパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については「PART2 周辺機器を利用する」の「ストラップスイッチの設定」(P.102)をご覧ください。

チェック!! 無断でパスワードを解除することを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.71)

Powerの設定

Powerの設定

本機の省電力管理設定を行います。

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

()マークが付いている設定項目は、ACPIモード時に設定が無効になります。

ACPIモード時、「Power Savings」、「Auto Suspend Timeout」、「Hard Disk Timeout」、「System Switch」の設定は、「スタート」ボタン「設定」
「コントロールパネル」「電源の管理」で行ってください。

参照 「電源の管理」の設定 Windows 98のヘルプ

Power Savings ()

パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することによって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
Power Savings	Disabled	パワーマネジメント機能を停止します。
	Customized	自動サスペンドおよびハードディスクのタイムアウト時間をユーザが選択できます。
	Maximum Power Savings	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 5 Minutes Hard Disk Timeout: 1 Minute
	Maximum Performance	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 60 Minutes Hard Disk Timeout: 15 Minutes

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

- ☑ **チェック!!** 「Customized」 「Maximum Power Savings」で10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

Auto Suspend Timeout(Ⅹ)

本機が自動的にサスペンド状態に移行するまでの時間を設定します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

Hard Disk Timeout(Ⅹ)

ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

- ☑ **チェック!!** 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。また「Hard Disk Timeout」の時間を設定した場合、Windowsの電源管理の設定が優先されます。

System Switch(Ⅹ)

「System Switch」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。工場出荷時の設定は、電源の管理モードが「APMモード」、システムスイッチが「Power Button」に設定されています。

- ・ 「Power Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・ 「Sleep Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「System Switch」の設定を「Power Button (工場出荷時)」から「Sleep Button」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック
- 2 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法


次の方法で強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は、「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 98を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

方法1

- 1** 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2** 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

方法2

- 1** 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

 **チェック!!** ACPIモードの場合、「System Switch」の設定は無効になり、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」「電源管理」の「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になります。ACPIモードに変更後は、「シャットダウン」に設定されています。

「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「シャットダウン」から「スタンバイ」に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

正しく電源を切る方法


「スタート」ボタン「Windowsの終了」をクリック
「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

APMモードと同じ方法で切ってください。

Resume On Modem Ring()

「On」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。なお、この項目は本機でWindows NTをご利用の場合は使用できません。工場出荷時は「Off」に設定されています。

 **チェック!!** ACPIモード時の各デバイスのスタンバイ状態からの復帰の設定については、次の方法で行ってください。

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック

「システム」をダブルクリック

「デバイスマネージャ」タブの各デバイスの「プロパティ」の「電源の管理」タブの「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことが出来るようにする」をクリックしてチェックを付ける

Resume On Time()

「On」に設定すると、レジューム時刻設定時間(Resume Time)で本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

Resume Time()

レジュームする時刻を設定します。

Bootの設定


起動順位の設定

起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

設定内容	説明
+Removable Devices	本機を起動するデバイスの順番を決めます。設定したデバイスの上から順番に起動されます。
ATAPI CD-ROM Drive	
+Hard Drive	
Network Boot	

起動するデバイスを変更するには【**X**】を使用して変更したいデバイスにカーソルをあわせ、【**+**】を押すとリストの上側に移動し、【**-**】を押すとリストの下側に移動します。

複数のデバイスが存在する「Hard Drive」「Removable Devices」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。【**Enter**】で下位の項目を表示します。

 **チェック!!** 使用環境に合わない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。

Removable Devices()

取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブの検索する順番を設定します。本機は、フロッピーディスクドライブが1台なので設定を変更する必要はありません。

Hard Drive()

ハードディスクドライブの検索する順番を設定します。本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの上から順に検索を続けます。

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧	126
割り込みレベル・DMAチャンネル	130
本機のお手入れ	131

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧

MA65T/T、MA56H/T本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名		MA65T/T	MA56H/T	
CPU	CPU種別	Intel® Pentium® IIIプロセッサ	Intel® Celeron™プロセッサ	
	クロック周波数	650MHz	566MHz	
	内蔵キャッシュ	一次	32KB	
		二次	256KB	128KB
	システムバス	100MHz(メモリバス:100MHz)	66MHz(メモリバス:100MHz)	
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	最大256MB DIMMスロット×2		
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから10~13MB占有、表示領域として使用されるのは一部)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810 Chipsetに内蔵(DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応		
		出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約790MB Office 2000 Personalモデル:約1,160MB Office 2000 Professionalモデル:約1,190MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,530MB	
補助記憶装置	CD-ROMドライブ	内蔵 最大24倍速(平均17倍速)		

機種名		MA65T/T	MA56H/T
インタフェース	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
	USB	2(本体前面×1、本体背面×1)	
	通信関連		
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能	
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ	
	入力関連		
	PS/2 109キーボード テンキー付きPS/2小型キーボード USB109キーボード USB小型キーボード USB98配列キーボード	本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続 USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続 (バスパワーハブ×2)	
PCカードスロット	TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard 準拠、Card Bus 対応		
ファイルベイ	3.5型ベイ[空き]	専用1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済) [0]	
	内蔵3.5型ベイ[空き]	専用1スロット(ハードディスクドライブで占有済) [0]	
	5型ベイ[空き]	専用1スロット(CD-ROMドライブで占有済) [0]	
カレンダー時計	電池によるバックアップ		
セキュリティ/マネジメント機能	運用管理機能	「CyberAccess」標準添付	
	障害・構成管理機能	SMART機能	
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、I/Oロック	
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件	10～35、20～80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時	約22W(最大42W)	
	省電力時	約14W以下	約15W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.010	R区分 0.012
外形寸法	本体	306(H)×250(D)×60(W)mm(スタビライザ含まず) 312(H)×250(D)×152(W)mm(スタビライザ含む)	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm	
	テンキー付きPS/2小型キーボード	39(H)×189(D)×382(W)mm	
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
	USB小型キーボード USB98配列キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm 39(H)×179(D)×472(W)mm	
重量	本体	約5.0Kg	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	約0.9kg	
	テンキー付きPS/2小型キーボード	約0.9Kg	
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード USB98配列キーボード	約1.0Kg 約1.1Kg	

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長 注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注 リピータの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
	適用回線	加入電話回線
	同期方式	半二重調歩同期方式
	通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps 注
	通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
	変調方式	TCM:14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps
	送信レベル	-9~-15dBm(出荷時-15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)
	データモデム機能	適用回線
同期方式		全二重調歩同期方式
通信速度		送受信:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps 注 受信のみ:56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/ 49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/ 42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/ 34666/34000/33333/32000/30666/29333/28000bps 注
通信規格		K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式		PCM:56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/ 49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/ 42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/ 34666/34000/33333/32000/30666/29333/28000bps TCM:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:4800/2400/1200bps DPSK:1200bps FSK:300bps
エラー訂正		ITU-T V.42(LAPM)、MNP class4
データ圧縮		ITU-T V.42bis、MNP class5
送信レベル		-9~-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル		-10~-40dBm
制御コマンド		HayesATコマンド準拠
NCU機能	適用回線	加入電話回線
	ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル
	NCU形式 注	AA (自動発信 / 自動着信型)
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

ATコマンド

ATコマンドについては、『[ATコマンド\(ここをクリック\)](#)』をご覧ください。



割り込みレベル・DMAチャンネル

工場出荷時の割り込みレベルは、次の通りです。

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	割り込みコントローラ
IRQ03	(空)
IRQ04	(空)
IRQ05	USB/PCカード
IRQ06	フロッピーディスクドライブ
IRQ07	(空)
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	(空)
IRQ10	LANまたはFAX/グラフィック
IRQ11	PCカード
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

工場出荷時のDMAチャンネルの割り当ては、次の通りです。

DMA	データ幅	システムリソース
0	8または16ビット	(空)
1	8または16ビット	(空)
2	8または16ビット	フロッピーディスク
3	8または16ビット	(空)
4		DMAコントローラ
5	16ビット	(空)
6	16ビット	(空)
7	16ビット	(空)

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

⚠ 注意



感電注意

お手入れの前には、本機の電源を切って電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
感電の原因になります。



発火注意

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの中で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

本体

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

本体の内部

長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、NECに相談してください。NECのお問い合わせ先 『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネスでお使いのお客さまへ～』または『NEC PC あんしんサポートガイド』

フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。

ディスプレイ

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽くふいてください。

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

キーボード

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECに相談してください。NECのお問い合わせ先 『NEC PC あんしんサポートガイド～ビジネスでお使いのお客さまへ～』または『NEC PC あんしんサポートガイド』

マウス

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

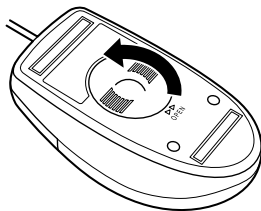
マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。
「マウスのクリーニング」(次ページ)

- ✓ **チェック!!**
- ・ 水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

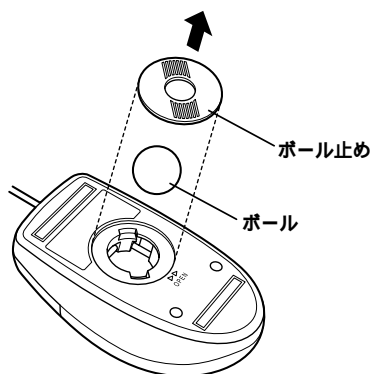
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4~6の手順は省略してもかまいません。

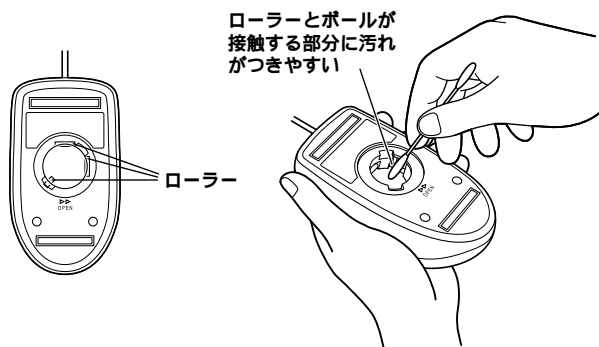
- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる
- 7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす
 汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります
 (このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けないでください)



- 8 ボールをマウスに戻す
- 9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定する

- チェック!!**
- ・ クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
 - ・ クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
 - ・ 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
 - ・ シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
 - ・ ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate

スーパースリムタワー型
(Windows 98インストールモデル)

このマニュアルは再生紙(古紙率:表紙50%、
本文100%)を使用しています。

808-877675-187-A

初版 2000年7月

NEC

P